

門一奴 / 286 5

東京帝國大學圖書

具氏博物學卷之五

哺乳動物綱

第三目

殺生類

此目ヲ分ケテ

三族トス即左ノ如シ

第一 蝙蝠類 即翅手類

此類中ニハ種々

第二 食蟲類 此類中ハ蜘蛛類

第三 食肉類 此類中ハ熊類

第一族 蝙蝠類

博物學

卷五

文部省

須川賢久 譯

田中芳男 校

蝙蝠類ハ動物中ノ甚奇異ナル者ニシテ其種類
 極テ夥シ其性質ハ鳥及獸類ニ關涉スレドモ鳥
 類ニモ非ス又四足獸類ニモ非ズ其前肢ニハ翅
 翼ヲ具スル手アリテ翼ノ大サハ前肢ノ十倍其

第二百二十二圖



蝙蝠ノ骸骨

長サハ概全軀ク四倍ナリ此手ニ
 張リタル膜ノ展伸スルトキハ容
 易ニ此動物ヲレテ飛バシムベキ
 大ナル翅翼トナルナリ總ヘテ蝙
 蝠類ハ他ノ諸動物ニ厭惡セラレ
 ルカ為ニ晝間ハ日光ヲ避ケ晩ニ至
 ハバ出デ

蛾及小蟲類ヲ食ヒ遂ニ岩礁ノ罅隙及洞窟等ノ
 中ニ歸リテ潛伏ス
 蝙蝠中ニラ最著ルキ者ハ亞米利加ニ産スル紐
 約克蝙蝠、歐羅巴ニ産スル牛狗蝙蝠、馬鞋蝙蝠ノ
 亞非利加洲
 馬達加斯島ニ
 産スル「ロウチ
 トバツ」即馬達
 加斯吸血蝙蝠、
 南亞米利加ニ

第二百二十三圖



紐約克蝙蝠

第二百二十四圖



牛狗蝙蝠

産スル妖怪蝙蝠等ナリ吸血蝙蝠ハ此翼尖ヨリ
 彼翼尖マテ長サ大凡四尺アリテ或ハ之ヲ狐蝙蝠
 蝠ト名ク蓋其色ノ赤キコト、頭形ノ狐ニ類似
 セルコトヲ以テナリ此種類印度ノ麻辣襪兒ノ
 海濱ニ夥シク栖息シテ其群飛スルニ方リテハ
 空中暗翳ナルニ至ル又夜間ハ大聲ヲ發スルモ
 ノニシテ其聲二里ヲ隔テ、尚聞キ得可シ常ニ
 果實ヲ食ヒ或ハ家畜ヲ殺害シ時トシテハ人ヲ
 襲ヒテ其面部ニ重傷ヲ蒙ラシムルコトアリ
 南亞米利加ノ吸血蝙蝠即妖怪蝙蝠ハ夜間好ミ

テ獸類及人血ヲ吸飲ス往々是ガ爲ニ死スル者
 アリ但シ其血ヲ吸フ方甚穩静ナルヲ以テ全
 ク吸盡サル、マテ人ノ之ヲ知ラサルコトアリ
 ト云フ

第百二十五圖



長耳蝙蝠

第百二十六圖



侏儒蝙蝠

蝙蝠ノ種類ハ其數甚
 多シ且屢目撃スル者
 ナレドモ其習慣ニ至
 リテハ未々詳明ナラズ
 侏儒蝙蝠ハ蝙蝠中ノ
 最小ナル者ニシテ長

博物志 卷五 三

耳蝙蝠ハ其容貌甚奇異ナル者ナリ

第二族

食蟲類

謂

此獸ハ全軀肥太ナレドモ大凡一尺許ニシテ長サ一寸許ノ刺毛ヲ被レリ其意ニ適スルトキハ體軀ヲ短縮シテ恰モ彈丸様ノ圓形ヲナス

第二百二十七圖



猬

晝ハ潛伏シ夜ニ至レバ出デ、小蟲類蝸牛、卵、果實等ヲ食フ又冬時ハ其體麻痺シテ行歩スルコト遅ク更ニ知覺ナキ者ノ如シ但レ斯ノ如キ種類ハ歐羅巴産ノモノナリ埃及ニ産

スル猬ハ前者ヨリ小ニシテ長耳ヲ具ス又爪哇

ニ産スル一種ノ猬アリ身長ハ八寸許ニシテ甚

長キ刺毛ヲ具ス

鼯鼠 此奇異ナル小獸ハ其種類甚夥多ニシテ

尋常鼯鼠星鼻鼯鼠鼯鼠鼯鼠赤色鼯鼠等アリ此等ハ

耕地ニ棲イ液汁多キ根及蜆類ヲ食ヒ地中ヲ十

字街坊、如クニ穿掘シ此巢ヨリ彼巢ニ通ズル

ノ路ヲ作爲ス總ヘテ此種類ノ眼ハ甚小ニシテ

之ヲ蔽フニ毛ヲ以テス故ニ世人之ヲ無眼ナリ

ト想定スル者多シ

星鼻鼯鼠 此種類ハ鼻端ノ周邊ニ奇ナル流蘇
 狀ノモノアリテ恰モ光線ヲ放ツ星ニ彷彿タリ
 鼯鼠ハ大概地下ニ棲息スレドモ日々亭午ニ至
 レハ新鮮ノ空氣ヲ得レガ爲ニ地上ニ出ツト云
 ノ星鼻鼯鼠並ニ鼯鼠ノ毛色ハ帶褐黑色ニシテ
 赤色鼯鼠ノ毛ハ金色ヲ帶ヒタル赤色ナリ歐羅
 巴ニ産スル者ハ尋常鼯鼠ノミニシテ上文ニ記
 載シタル者ハ皆北亞米利加ニ産スト云フ
 米蘇利及哥倫比ニ産スル鼯鼠ノ一種「ゴトビ」
 即「カマス」レトハ頰嚙アリ此頰嚙ハ其穴ヲ穿ツ

第二百二十八圖



鼯鼠

トキニ汚物ヲ貯蓄ス
 ル爲ノモノト考定ス
 足ハ大ニシテ非常ノ
 勢力ヲ有セリ此種ハ
 「カマス」ノ根ヲ食フニ
 因リテ之ヲ「カマス」
 ト名ツク

第三族 食肉類

此族ヲ分ケテ二科トス即左ノ如シ
 第一種 走ノ者 熊ノ如ク脚掌ニ
 テ地上ヲ走ル者

第二趾走ノ者 犬、狐、猫等ハ如ク
足趾ニテ走ル者
第一科踵走ノ者 此屬中ニハ其種數多ア

リ其主眼ナル者ハ歐羅巴及亞細亞ニ産スル褐
色熊亞米利加ニ産スル黒熊荒地熊灰色熊海羅

第百二十九圖



亞米利加産黒熊

熊眼鏡熊大唇熊藪地熊西藏熊
巫來熊白熊等ナリ
褐色熊 此熊ハ身長大凡四尺
ニレテ毛色ハ其名稱ノ如ク帶
黒褐色ナリ歐羅巴及亞細亞ニ
産シ特ニ堪察加ニ多ク其性猛

第百三十圖



歐羅巴産褐色熊

雄獨行シテ群ヲナズ常ニ暗
鬱タル林中ニ棲ス冬間ハ樹窟
或ハ巖穴ノ中ニ蟄伏ス且此種
類ノ熊ハ馴習ニ適ス可キモノ
ナリ故ニ之ヲ馴養シテ樂器ノ
調ニ從ヒ跳舞ヲ教フル者往々

之アリ

黒熊 此熊ハ體格ノ大サ褐色熊ニ類似スレド
毛色ハ光澤アル黒色ナリ亞米利加ノ北部ニ産
シ寂寞タル林中ニ棲息シ果實樹根蜂蜜又ハ魚

類ヲ食ヒ饑ルトキハ小弱ナル獸類ヲ襲ノニ至ル亞米利加ノ土人此熊ヲ獵取スルハ其毛皮ヲ採リテ利ヲ得ニガ爲ナリ

白熊即極地熊 此熊ハ其身長一丈二尺ニ及ブモノ往々之アリ其猛悍ニシテ甚驚怖スベキヲ以テ他熊ト區別ス北冰洋ニテハ海中數十里外ニ漂泛セル氷上ニ此種類ノ數多群集スルヲ見ルコトアリ其海ニ在ルトキハ魚類海狗及鯨ノ死骸ヲ食ヒ陸ニ在ルトキハ獸類又ハ植物ノ子實ヲ食フ而シテ其性甚慈愛アリ人若其子ヲ捉

レハ母熊必^ス險ヲ冒レテ搜索シ之カ爲ニ重之ヲ蒙リ或ハ死スルコトアリト云フ東西兩大陸共ニ此種ヲ産ス

灰色熊 此熊ハ其大サ黑熊ノ倍ニシテ體毛ハ灰色ヲ帶ビタル褐色ニシテ頭毛ハ灰色足ハ巨大ニテ頗強壯ナリ此熊北亞米利加ノ北西ニ棲息スルモ其最多キ地方ハ岩石山トス諸熊中ニ在リテ最怖ルバク林中ノ王ト稱フ銃ヲ以テ之ヲ擊テ^テモ容易ニ死セズ其人ニ敵スル甚危險ニシテ時トシテ體中一八個ノ彈丸ヲ受ルト

ニ尚人ヲ逐ノ者アリ哉ニ岩石山ノ獵人ハ灰色熊ノ高ニ危険ヲ被ルヨシ少シラスト云フ

蒸地熊 此熊ハ形狀ノ大サ褐色熊ニ類似シ全

體ノ毛色帶黃褐色ナリシトスレバ湖ノ

近傍ヨリ此氷洋ニ類スル不毛ノ地ヲ頻ニ往來

レ又能ク魚類ヲ食フ亞米利加ノ土人ハ大ニ此

熊ヲ怖ルハナリ

大唇熊 此熊ハ脊上ニ長サ一尺許ニシテ黑色

粗糙ナル鬃毛ヲ被リ唇ハ薄ク長ク粗之ヲ

甚長ク提出スヘキ勢カヲ有セリ此熊多ク印度

第三百三十一圖



大唇熊

ニ産シ果實胡桃蜂蜜脂膏ヲ食

フ然レドモ肉及樹根ヲ食ハズ

其舉動ハ温和無害ニシテ遲鈍

ナリ又常ニ地下穴内等ニ棲息

スト云フ

婆羅熊 此熊ハ頭ノ形態ト其

長サ尺許ノ舌ヲ有スルコトニ依リテ他熊ト

區別ス其毛ハ短ク柔軟ニシテ純黑色ナリ身長

サ六凡三尺九寸アリ婆羅熊ニ産スル者ニシテ性

甚貪食ナリ此熊ノ一頭嘗テ倫敦ニ在リテ貪食

第三百三十二圖



巫來熊

重ク耳ハ甚大ナリ此熊果實ヲ食ヒ肉食ヲ爲サズ
眼鏡熊及巫來熊 此二熊ニ付
キテノ記事ハ甚稀ニシテ之ヲ

皮ニ過キ食傷レテ死シタルコ

トアリシガ其食物ハ主ニ麵包

ナリト云フ

西藏熊 此熊ハ其毛黒色ニシ

テ頭ハ匾平頸

ハ太ク四肢ハ

第三百三十三圖



眼鏡熊

知ル者少シ眼鏡熊ハ安的斯山ニ産シテ他ノ熊

類ヨリモ甚柔弱ノ者ト見ユ巫來熊ハ其習慣藪

地熊ノ習慣ニ相等シト云フコトヲ知ルノミ

浣熊 此熊ハ四足獸ノ一屬ニシテ亞米利加洲

土産ノ動物ナリ其種ニアリ一ハ北亞米利加墨

西哥及西印度等ニ産スル尋常ノ浣熊ナリ一ハ

南亞米利加ニ棲ム尋常ノ浣熊ハ身長サ大凡ニ

尺許ニシテ毛ハ帶褐灰色口ハ白色尾ハ長クシ

テ褐色ト白色ト相間シタル環紋アリ此熊ハ樹

木ヲ攀ルコト甚容易ニシテ地ヲ走ルコト尤迅

第百二十四圖



浣熊

速ナリ且栗鼠ノ如ク體軀ヲ後
 足ノ上ニ豎立シ以テ其食物ヲ
 把ル之ヲ馴ラストキハ其性變
 シテ善良トナリ善ク嬉戯ヲ爲
 シテ恩惠ヲ感スルニ至ル南亞
 米利加ニ産スル浣熊ハ北亞米
 利加及墨西哥ニ産スル者ヨリモ大ニシテ毛色
 ハ鹿兒ノ如シ
 此動物中ニテ認知セル者ハ喜馬拉山中
 小河ノ岸ニ産スル者ナリ身長ハ四尺二寸許

第百三十五圖



猫熊

ニシテ林中ニ棲息シ鳥類ヲ捉
 ルコト甚迅捷ナリ其習慣ハ未
 審ナラス
 鼻熊 此獸ハ其種ニアリ甲種
 ハ南亞米利加ニ産スル者ニシ
 テ毛色ハ光澤アル赤色ナリ乙
 種ハ其毛褐色浣熊ヨリモ小ニシテ長鼻ヲ具シ
 鼻端ヲ運動スヘキモノナリ其尾ハ體ヨリモ長
 クシテ寒天ニ至レハ痒ヲ覺ユルコト甚シ故ニ
 此獸ハ自ラ尾ヲ嚼ミテ之ガ爲ニ疥癬ヲ發シ命ヲ

第百二十六圖



鼻熊

絶ツエト往々之アリ是鼻熊ハ
其尾ヲ食フト云フ説ノ起ル所
以ナリ此獸ハ常ニ肉ヲ食ヒ且
鳥及其卵ヲ搜索スルカ爲ニ樹
木ニ攀登レ或ハ又家禽及小サ
キ野獸ヲ殺害スト云フ

此四足獸ハ其種ニアリ一ハ歐羅巴ニ産シ
一ハ亞米利加ニ産シテ各能ク類似スト雖モ亞
米利加産ノ者ハ稍小ナリ且此獸ノ脚ハ短且強
壯ニシテ地中ニ穴ヲ穿ソエト極メテ容易ク常

第百三十七圖



歐羅巴産熊

ニ穴中ニ潜伏
シ夜間食物ヲ
得ニカ爲ニ外
出ス蓋日光ヲ
厭フ者ト見エ
タリ其食物ハ

第百三十八圖



亞米利加産熊

果實、樹根、蝸牛、蚓、類等ニシテ又小動物ヲ吞ミ體
毛ハ長クシテ地上ニ垂ル南亞米利加ノ土人ハ
此獸ヲ獵ルコトヲ以テ最樂ノ遊ト爲セリ
貪獸 此獸ハ加拿他ニテ「カルカビョ」ト名ツ

タル者ニシテ身長大凡一尺ナリ毛色ハ帶黒褐
色ニシテ體ハ太ク足ハ短シ形體ノ大リニ比ス
レハ非常ノ勢カラ有テリ此獸ハ歐羅巴及亞米
利加ノ北部ニ産ス或博物家ハ之ヲ熊ノ一種ト
考定ヒリ

「ラアテル」此獸ノ種ハ唯一アルノニ其大リハ
歐羅巴ニ産スルニ等シクシテ脊部ハ灰色腹
部ハ黒色ナリ喜望峰ニ棲息シテ野蜂ノ巢ノ搜
索スル爲ニ其長爪ヲ以テ地ヲ穿メト云フ

第二科趾走ノ者 臭猫 此獸ハイシチ鼯鼠ノ一種類

ニシテ西大陸ノ北部ニ棲息シ身長ハ寸許ニシ
テ毛ハ褐色ナリ鳥類、卵類、小キ四足獸ヲ食ト爲
ス此獸怒ルトキハ臭獸ノ如ク堪ヘ難キ臭氣ヲ
放メ者ナリ

第三百三十九圖



鼯鼠 臭猫

「ヘルヒト」此動物ハ
鼯鼠ノ小キ種類ニシ
テ身長ハ凡ソ一尺四
寸毛ハ黄色ナリ「クウ
」ハ氏ハ之ヲ臭猫ノ
一種類ト考定ス其資

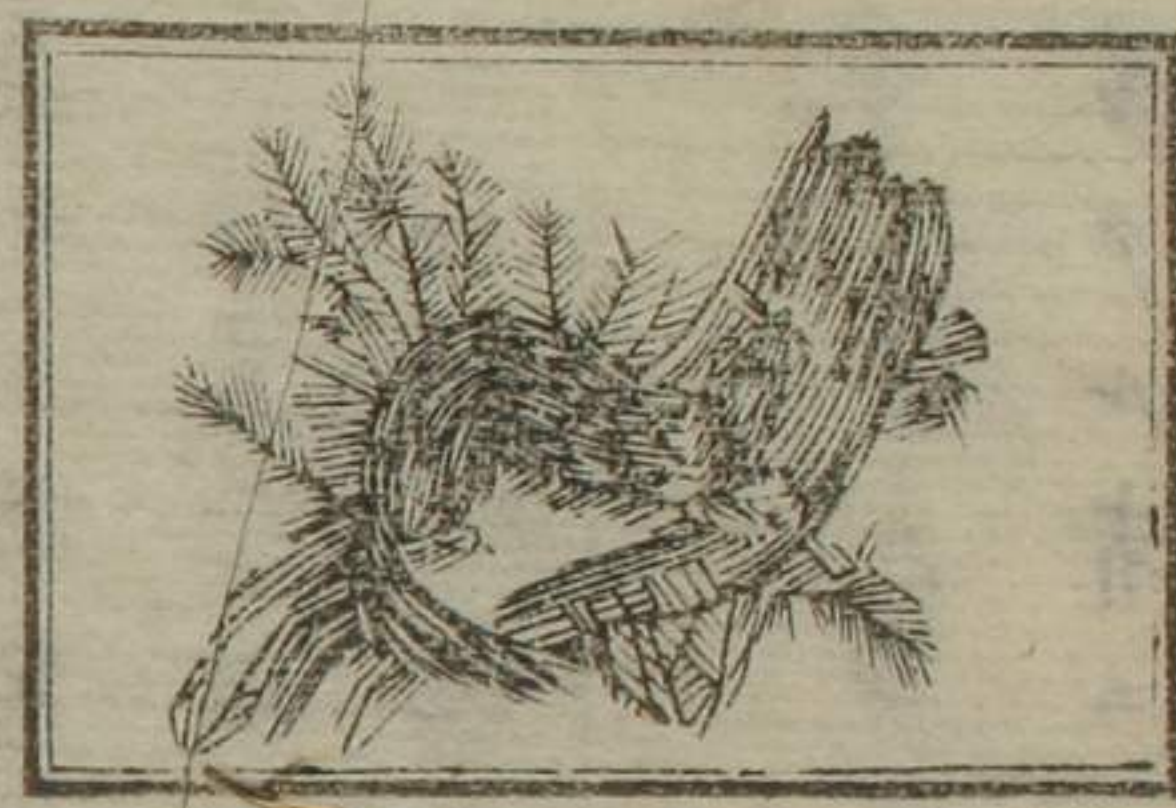
性家兔、仇敵ムル者ナリ
 鼯鼠 ウチキミ 此「空」セシ即鼯鼠ナル語ハ臭猫ヘルレツ
ト「ミ」 紹鼠サル「サル」ブルビカン「カ」セシ等ヨリ成
 立セル紹鼠屬即「モ」ステラ、セ子「ラ」ノ總名トシテ
 用拜ルコトアリ蓋此紹鼠屬ノ形態、皆固有ノ
 鼯鼠ニ類似スレバナリ身長七寸許體區ハ細ク
 脚ハ顔短ニシテ小穴中ニ潛入レ得可ク其性敏
 捷人ヲ畏レ貪食飽カラ知ラサル小獸ニシテ鳥
 類スズメ鼠ネズミ粟鼠ムギネズミ卯類ウサギヲ食ヒ又屢カヒトリ家禽ヲ害スル者ナ
 リ歐羅巴及亞米利加ニ在リテハ此獸甚尋常ノ

者ニシテ冬天ニ至レバ其毛色變シテ純白トナ
 ル然ルトキ之ヲ「イル」ニシテ或ハ「スト」トシテ名ツ
 ク
 「シ」ニシテ此獸ハ鼯鼠屬ノ一ニシテ身長サ大凡
 一尺其毛ハ帶黒褐色ナリ歐羅巴並ニ亞米利加
 ニ産シテ其習慣ト容貌トハ水獺ニ類似レ當ニ
 可岸ノ穴中ニ棲息シテ蛙類及魚類ヲ食フモノ
 ナリ
 紹鼠マルテン「リ」ブブル「カ」ニヒツセル此等ノ獸類ハ其
 種數多アル者ニシテ皆鼯鼠ニ類似シ脚ハ短ク

動物志 卷三 三

博物志
卷五
老五

圖十四百第



鼠貂

體ハ細シ就中主眼ナル者ハ歐羅巴ノ北部ニ棲息シ毛ハ褐色身長凡一尺五寸許ノ松貂鼠ト亞細亞ノ北部并ニ北亞米利加ニ産スル者ニシテ利加ニ産スル者ニシテ松貂鼠ニ類似セルサズルト北亞米利加ニ産スル「ピカン」^{ピカ}「ヒッセル」^{ヒッセル}等ナリ此等ノ獸類ハ小ナル獸類及鳥類ノ卵ヲ食ト爲シ其毛皮ハ皆甚價アルモノニシテ貿易ノ要品ナリ

圖一十四百第



圖レス獵ヲ鼠貂

コトノ艱難辛苦ハ實ニ言語ニ盡シ難シ臭獸 此獸ハ亞米利加ニ産スル四足獸ノ一ニシテ臭氣ヲ放シカ爲一著名ノ者ナリ其臭氣ハ直徑三里ヲ隔ツル地方ニ達スルコト往ハ之ヲ毛皮ヲ得ンカ爲ニ「ガ」ブル及貂鼠ヲ獵スルコトハ西伯利亞國流罪人ノ職言ニシテ非常ノ勉強ト忍耐トヲ以テ之ヲ爲スナリ此二獸ヲ獵スル

博物志 卷五 五 五

水獺 卷五

第四百十二圖



臭獸

物ヲ求ムルハ多ク夜間ニ在リ種ヲ成セリ其食獸等ナリ南亞米利加ニ産スル種ニモ亦此種中ニ屬フト云フ
水獺 此四足獸ハ形狀稍鼯鼠ノ如クニシテ其

第四百十三圖



水獺

種數多アリ尋常水獺ハ身長二尺許ニシテ毛色濃褐ナリ此毛皮ハ頗美ニシテ多クハ之ヲ帽子ニ製造スルガ爲ニ甚貴重スルモノタリ此獸ハ常ニ江河池泉ノ邊ニ棲息シ魚類蛙鼠及樹

木ノ新芽ヲ食フ

又此獸ハ學童ノ如ク嶮レキ岸ヲ滑落シテ自嬉戲ヲナス者ナリ且加拿侖水獺ハ酷歐羅巴ニ産スル水獺ニ肖タリ海獺ハ其身長三尺許ニシテ

博物志 卷五 十五

常ニ北大平洋ノ海邊ニ在リ牝牡相共ニ棲息シ
無害多戯ノ者ナリ總ヘテ獺類ノ毛皮ハ皆交易
重要ノ品タリ

此他獺ノ種類尚數多アリ

犬狗屬 ドクノミ 此屬ハ犬狗類、狐類、狼類等ヲ包有ス

犬狗ヲ馴養スルコトハ他ノ諸獸ヨリ甚易ク且
其愛情アルコト、誠實ナルコト、モ亦他ノ諸
獸ニ卓越ス其人ニ依頼スルコト恰モ人ノ朋友
互ニ相信スルノ情ニ近シ人ノ大ニ之ヲ愛スル
者ナレバ必能ク其恩ヲ報スルモノナリ又其勢

力大ニシテ走ルコト速

ニ鼻ハ善ク嗅ク者故ニ

他ノ獸類ヲ獵ルトキハ

大ニ人ノ幫助ヲナス者

ナリ

凡ヘテ犬狗ハ世界中ノ

各所ニ於キテモ人ニ隨

從シ處トシテ犬狗ノ棲息セザル地ナシ

犬狗ハ元ト狼及豪狗ノ類ヨリ出テタリト云フ

説アレドモ亞細亞ノ諸島及其他世界各所ノ郊

第四百四十四圖



犬

犬類ノ所爲ヨリ起リタルニ、ナラレ蓋此犬類ハ半野生ノ者ニシテ其性甚惡ク竊ニ物ヲ盗ミ粗暴ニシテ貪食ナリ

「アイロスクリ、ホーランド」此犬ハ犬狗中最大ノ者ニシテ昔時愛耳蘭ニテ狼ヲ獵ルニ之ヲ使役セシガ現今ハ此種類甚稀少ナリ又紐方蘭犬ハ元來紐方蘭及其近傍ニ産セシ者ニシテ甚美麗ナリ但、其足ニ蹠アリテ好ミテ水中ニ入ル且銳敏ニシテ信實ナルカ爲ニ犬ニ人ニ愛セラル者ナリ又「マスチフ」ハ英吉利ニ産シテ家屋及

庭園等ヲ守ル者ナリ故ニ人ノ之ヲ愛スルモノ多ク「ホーランド」此犬ハ犬狗屬中ノ最モ敏捷ナル者ニシテ野獸ヲ見レバ之ヲ逐フ然レドモ臭氣ヲ嗅キテ之ヲ追フニ非ズ又「エスクモウ」犬ハ強壯活潑ナルガ故ニ亞米利加ノ土人「エスノモウ」種ハ之ヲ使役レテ橈ヲ引カレム又大ニシテ且暴ナル水火ハ足ニ蹠アルヲ以テ鳧鴨ヲ獵ルニ之ヲ使役ス又西班牙「バイント」ハ鳥類ヲ獵ルニ用井テ人ノ愛スル者ナリ又「ト」ハ鳥

博物志卷之五

類ヲ驚起セシムル為ニ用井ル者ナリ又昔時鹿
ヲ獵ルニ用井タル舊英吉利グリス、ドグドリスハ其種頗罕ニシテ
見令甚稀少ナリ又「バ」レ、ドグドリスハ其種頗罕ニシテ
能ク「バ」スチ「バ」ニ類似セリ

牧羊犬 此犬ハ歐羅巴ニ在リ
テ牧羊者ノ使役ニシテ誠實ナ
ル犬ナリ蓋牧羊者ハ之ヲ豢養
レ衆多ノ羊ヲ守ラシム又牛狗
ハ大狗類中ノ最猛烈ナル者ナ
リ又「キール」ドグドリスハ銳敏ニシテ



第百四十七圖

スバテール

動作スル者ナレドモ性怒リ易
クシテ養ヒ難シ又貪食犬ハ其
毛稀疎ニシテ夜間 兎ピナル、家兎ラベツヲ
獵ルニ用井ル者ナリ又狐狗オキスハ
英吉利及亞米利加一テ狐ヲ追
フ為ニ用井ル者ナリ又兎獵犬
ハ強壯活潑頗矯捷ニシテ「バ」ガバニ類似ス又「バ」
ガバハ香氣ヲ有シ音樂ノ如ク温和ナル聲音ヲ
發スル者ニシテ之ヲ兎獵ニ使用ストニ
タルマナフントク即馬車犬コトナ此犬ハ美麗ノ斑



牧羊犬

第百四十八圖

博物志卷之五 九

十
物
等
五

黙アリテ能ク馬車ノ上ニ拉携セラル者ナリ
又大水マキ「ツバニール」其教へ易キコト、其愛情
アルコト、ニ依リテ價アル者ナリ又小水ミヅ「スハ
ニール」ハ上ノ大ナル者ニ類似セリ又「スプリ
ケル」即「コッケル」ハ活潑爽快ニシテ能ク嬉戯ヲナ
ス者ナリ但此犬ハ鶻ノ種類ヲ獵ルニ使役ヲ又
獵狐狗ハ其種類ニアリ一ハ猛烈一ハ温和ナリ
此等ハ皆强壮敏捷ニシテ鼠ネズミ鼯鼠リス等ノ仇敵
「ス又」ス「ヒ」ヒハ短曲ノ脚アリテ活潑
猛烈ノ者ナリ昔時ハ英吉利ニテ「スヒット」鐵串ニ

テ「スヒット」ニテ「スヒット」ヲ轉スル爲ニ之ヲ使用
セリ又「コンホルテ」ハ美麗且小ニシテ之ヲ捕
蒜狗ノ如クニ馴養ス
大狗ノ銳敏ナルコト、愛情アルコト、ヲ示ス
所ノ說話、甚數多ニシテ一卷ノ書ノナス可シ
然レドモ此等ノ說話ハ大概世人ノ聞知セルモ
ノナレバ今復之ヲ贅セズ、
狼 此獸ハ其性猛悍兇暴ニシテ大ニ犬ニ類似
シ其大サハ犬ノ大ナル者ノ如ク常ニ群ヲ聯子
テ羊、羊仔、鹿及其他抑制スベキ獸類ヲ殺害シ餓

博物志 卷五

子

文部省

博物學 卷五

其勢猛勇ニレテ當ル可
ノズ又狼仔ヲ捕ヘ置ク
トキハ人ト馴レ親ミテ
犬ノ如キ愛情ヲ顯ハレ
、例往々之アリ

尋常狼 此狼ハ其毛帶
褐色ノ灰色ナリ英吉利ニテハ此狼種ヲ絶テレ
ト雖モ尚佛蘭西及歐羅巴北部ノ國ニ棲息シ特
ニ北方ノ山部ニ繁息ス又亞米利加ニテハ其北



第四百九十九圖

狼

部ニ棲息シ尋常狼ニ類似セル一種ノ者アリ但
此種ハ始メテ此國ニ移住セシ人民ノ發見セシ
モノナレドモ漸々減少シテ見今ハ亞米利加西
方ノ地ヲ除クノ外甚稀トリト云フ
黑狼及白狼 此二種ノ狼ハ北亞米利加ニ棲息
スル者トリ又牧場狼ハ米西悉比河ノ近傍ニ棲
息スル者ナリ此狼類及其他一二ノ者ハ皆氣候
ノ異ナルガ爲ニ尋常狼ノ變シタル種類ト考定
ス
豪狗即チヤカル 此四足獸ハ狼ニ類似セル者

狐ノ聲ハ種々ニシテ同一ナラズ或ハ吠ユルコ

第一百五十圖



豪狗

ニシテ東大陸ノ暖地ニ棲息シ
毛ハ帶黃灰色ニシテ狐ヨリ稍
大ナリ性狼ノ如ク貪食ニシテ
常ニ群ヲ聯子以テ獸類鳥類ヲ
襲ヒ屢悲哀ナル呼聲ヲ發ス其
聲陰鬱トシテ天空ニ瀰滿ス此
獸賊ルコト甚レキトキハ人ノ死體ヲ發掘レテ
之ヲ食フト云フ

狐 此獸ハ其種類甚多クテ東西兩大陸ノ温
帶及寒帶地方ニ棲息シ苦惱ヲ厭ハズ夜間ニ出

第一百十五圖



黒狐

第一百二十五圖



尋常狐

テハ食物ヲ掠奪ス蓋此獸ノ極
メテ狡猾ナルコトハ其身體ヲ
護衛スルニ甚適切セリ且疑心
甚深キニ依リテ之ヲ捕シカ爲
ニ設ケタル蹄網ニモ容易ニ陷
ラズ常ニ家兎鳥類及他ノ小動
物ヲ掠奪シ或ハ莊園ニ忍ヒ入
リテ家禽ヲ竊ヒ去リ或ハ其卵

ヲ吸フ者ナリ

狐ノ聲ハ種々ニシテ同一ナラズ或ハ吠ユルコ

博物志 卷五 三三 文部省

トアリ或ハ叫ブコトアリテ音調モ亦同一ナラ
 ズ甚不快ナルアリ或ハ悲哀ナルアリ或ハ心痛
 スベキモノアリ其咬ムコトハ危険ニシテ一回
 咬ムトキハ容易ニ放タザル者ナリ又狐ノ種類
 數多ナル所以ハ全ク各所氣候ノ同シカラザル
 コトニ歸スルモノナラレ

狐類中ノ主眼ナル者ハ兩大陸ノ北極地方ニ棲
 息スル北極狐並ニ兩大陸ニ棲息スル尋常赤狐
 采利堅赤狐亞米利加及亞細亞ニ産スル銀狐北
 亞米利加ニ産スル灰色狐十字狐大瓶狐等ナリ

年々ハドソシ港ヨリ輸入スル 第百五十三圖

銀狐、大宇狐、赤狐等ノ毛皮ハ莫
 大ノモノナリ就中銀狐ノ毛皮
 ハ甚貴クシテ北亞米利加ニ産
 スル他ノ毛皮ニ比スレハ其價
 六倍ナリ蓋銀狐ノ毛皮ハ毛際
 黒色ニシテ唯其毛尖ノミ白色銀ノ如シ
 「ヒンニク」此細小ナル獸ハ亞非利加洲ノ奴皮
 アニ産スル者ニレテ犬ノ一種類ト想定セリ其
 體軀ハ十二兩入りノ瓶中ニ受容スベシ蓋此獸



北極狐

博物學 卷五

ハコリトレ氏ノ發見セシ者トス

靈猫 レシエン 此獸ハ身長二尺乃至三尺許ニシテ毛ハ

長ク色ハ褐色ヲ帶ビタル灰色ナリ亞細亞及亞非利加ノ熱帶地方ニ産シテ其種ス三アリ此三種ハ皆麝香ノ香氣ヲ分泌スル

爲ノ囊ヲ具ヘタリ但此香氣アル物ハ甚貴重スベキ者ニシテ交易重要ノ品タリ名ヅケテ靈猫香ト云フ又此香ヲ得ンカ爲

圖四十五百第



クニシヒ

圖五十五百第



猫靈

ニ靈猫ノ數頭ヲ飼養スル者アリ特ニ和蘭ニテハ多ク之ヲ飼養フト雖モ元來此獸ハ其性兇暴猛烈ニシテ決シテ馴致スベキ者ニアラズ又此獸ハ動作矯捷ニシテ鳥及小動物ヲ食フ其餌食ヲ爲スハ大概夜間ニアリ爪哇靈猫并ニ「ゼイベツト」ハ其容貌尋常靈猫トハ大ニ異ナル者ナリ
「ゼキツト」此獸ハ佛蘭西ヨリ喜望峰ニ至ルノ間ニ棲息シテ泉源近キ澗水ノ邊ニ屢出没ス其習慣ハ頗猫ニ類似セル者アリ之ヲ家ニ養ヒテ猫ニ代フル者アリト云フ

猫鼬 イタモン 此獸ハ埃及ニ産スル者ニシテ其鱈魚ヲ捕ルニ必ス踊リテ咽喉ヲ咬ミ以テ之ヲ殺害ス此獸ノ鱈魚ヲ害スルコトニ就キテハ數多ノ奇談アリト云フ又埃及ニテハ此獸ヲバラフ、ゴトト名ヅク好ミテ鱈魚ノ卵ヲ食フ之ヲ尋常猫ニ代用スル者往々之アリ其毛ハ濃褐色ニシテ身長ハ大凡一尺五寸ナリ

地狼 ハイト 此肉食獸ハ南亞非利加ニ産シテ夜間ノ動物ナリ故ニ之ヲ知ル者少シ此獸ハ鬣狗並ニ狐ニ類似スト雖モ此兩種トハ異ニシテ產地ニ

テハ之ヲ鬣狗ト名ヅクハ非也

鬣狗 ハイト 此獸ハ亞非利加ニ産スル貪食獸ノ一ニシテ差狼ニ類似シ好ミテ肉ヲ食フ就中腐敗シタル死體ノ肉ヲ嗜ム者トリ此獸ハ家ニ畜ヒテ馴ル者往々之アリ

第百五十六圖

第百五十七圖



地狼



鬣狗

ト雖モ其性甚猛烈ナリ其種ニアリ一ハ線條ア

十寸餘

リ一ハ斑點アリ蓋喜望峰ニテハ斑點アル種ヲ以テ獵ニ使役スト云フ又亞非利加ノ某地方ニテ豪狗、鬣狗、疣鬣等相集リテ一箇ノ死骸ヲ食フコトヲ見タリ

猫屬 此屬中ニハ獅子、虎、豹等ヲ包有ス

獅子 獅子ハ身長五尺乃至八尺アル四足獸ニシテ毛色ハ鹿兒ノ如ク尾端ニ流蘇狀ノモノヲ具シ其牡ノ頸ニハ鬣長ノ鬣アリ亞細亞、亞非利加ノ兩大洲ニ産スレバ亞細亞産ノ者ト亞非利加産ノ者ト相異ナル所ハ唯鬣色ノミニシテ亞

細亞産ハ黄色亞非利加産ハ黒色ナリ猫屬中他ノ諸獸ノ如ク獅子モ亦堅牢尖銳ノ爪ヲ具ス此爪ハ伸縮スルコト意ノ如クニシテ歩ムトキハ常ニ掌ノ軟胞中ニ收縮セリ



犬ヲ以テ獅子ヲ捕ル

世人獅子ノ形態ヲ一見セハ筋骨強壯其大猛カタルコトヲ了知ス可シ獅子ノ前脚ハ猫屬中他ノ諸獸ヨリモ太シ又其後部ノ光澤美麗ナル形狀ハ動作シテ

第五百五十八圖

博物學 卷五

二五 文部省

強猛ナルコトヲ示スニ足ル其食ハレト欲スル
獸類ヲ捉攫スルトキハ二十乃至三十尺ヲ隔ツ
トモ一躍レテ之ヲ擒ルコト往々之アリ其前足
ヲ以テ撲撃スルコト甚強ク人若一撲ヲ受クレ
バ必^ス地上ニ轉倒ス其吼聲ハ尤驚愕スベクシテ
其食ハレト欲スル獸類ハ跳躍スルトキノ聲ニ
至リテハ不調子ナレトモ凜然當ル可ラス實ニ
恐怖スベキ者ナリ
斯ク恐怖スベキ吼聲ヲ發スルコトハ獅子ノ爲
ニ甚有用ナリ其故ハ他ノ獸類此吼聲ヲ聞ク

キハ戰慄驚怖シテ其巢窩ヨリ逸出逃奔シ却テ
之ヲ爲ニ獅子ニ遇會シ遂ニ其食ヲ所ト爲ル又
其他獸ヲ進撃スルノ法ハ大概急突ニシテ躍リ
テ達スベキ距離ナレハ必^ス一躍シテ之ヲ捉フ其
跳躍スルニ當リテハ力勢甚強暴ナリ故ニ唯其
跳躍ニシテ死スルモノ往々之アリ其食物ハ
主トシテ鹿類、羚羊類ナリ然レトモ時トシテハ
放馬并ニ牛等ヲ食ハンガ爲ニ人家ノ近傍ニ潛
伏スルコトアリ獅子ハ此ノ如ク猛烈ニシテ恐
怖スヘキ強カラ有スル者ナレトモ之ヲ捕ヘテ

博物學 卷五 三七 文部省

飼ヒ置カトキハ其飼養者ニ極メテ從順ニシテ
隔意ナク感謝ト戀情トヲ顯ス者ナリ又獅子ハ
人ノミナラフ他ノ獸類ノモ相戀ヒ相親ムノ情ヲ
顯ハシ、例少カラス就中犬ヲ保護撫育センコ
ト數多アリ其一例ヲ舉シニ昔時龍動塔此塔ハ
動府ノ東部ニアリ昔時ハ因
獄ナリシカ今ハ武庫タリノ中ニテ小犬ノ死
ヲ悲歎レ之カ爲ニ死シタル獅子アリ蓋此小犬
ハ久シク獅子ト共ニ其洞窟中ニ棲息シテ獅子
ノ親友タリト云フ右等ノ事情ヲ熟考スレバ總
ハテ肉食獸ハ其肉ヲ嗜食スルカ爲ニハ殘忍ナ

ル者ナレトモ其他ハ甚殘忍ナル者ニ非ス故ニ
幼稚ヨリ肉食ヲ嗜性ヲ制スレバ漸々其性ヲ變
シテ從順ノ者トナル可シ
亞米利加獅即「コカル」此四足獸ハ亞米利加洲
土産ノ者ニシテ鬣ト尾端ニ流蘇狀ノ毛ナク其
色ハ鹿兒ノ如シ身長ハ大抵三尺乃至五尺アリ
此獸ハ體頗大ニシテ亦頗強ナレドモ其性甚怯
懦ナリ總ヘテ資性怯懦ナル者ハ大抵殘忍ナル
ガ如ク此獸モ亦甚殘忍ノコトヲナス者ナリ屢
羊ノ血ヲ吸ヒ又ハ猫屬中他ノ獸類ノ如ク他獸

ヲ攫食シテ藪澤中ヲ徐々ニ匍匐シ其食ノ可キ
 獸類ヲ見レハ突然跳躍シテ之ヲ數片ニ劈斷ス
 南亞米利加ノ平原ニテハ蹄網ヲ以テ能ク之ヲ
 捕フト云フ又此獸ハ容易ニ馴致スル者ナシテ
 其飼養者ニハ甚從順ナルノミナラス大ニ戀愛
 スル者ナリ昔時ハ此獸亞米利加合衆國ノ各所
 ニ尋常棲息シテ其名稱モ亦數多アリ即「パン
 ル」^ル「バイン」^ト「ル」^カ「タモ」^ト等是ナリ然ルニ常
 今ハ山部及遠西ノ地方ヲ除クノ外甚稀ナリ
 虎ハ此四足獸ハ猫屬中ノ一ニシテ其力ト六十

ト勇氣ト唯獅子ニ劣ルノ
 體ハ長ク脚ハ頗短ク眼
 ハ玻璃ノ如ク其容貌兇暴
 猛烈ナリ亞細亞洲並ニ其
 諸島ニテハ虎ノ患甚多シ
 其力能ク人ヲ擒捉シ之ヲ
 負ヒテ奔馳シ肉ヲ欲マザルトキモ之ヲ殺シテ
 頗殘虐ヲ極ムト云フ此殘忍ナル性トハ相反シ
 其毛皮ハ美麗ノ黄色ニシテ黑條ヲ交錯シ其行
 歩ハ猫ニ類似ス又虎仔ヲ捕ヘテ殷勤ニ飼養ス

第一百五十九圖



虎

第百六十圖



シヤゴウエ

ニ雲紋虎ト名ヅクル者アリ南
亞米利加ニ産スル黒虎ハ其性
猛烈ニシテ大サシヤゴウエノ一
種ト想定セリ

ルトキハ成長スルニ從ヒ能ク
人ニ馴レ飼養者ニハ最從順ニ
レテ之ヲ戀フノ情ヲ顯ハスニ
至ル又亞細亞ニハ王虎ト名ヅ
クル一種ノ者
アリ又此種中

第百六十一圖



雲紋虎

シヤゴウエノ一ニシテ大サ略ゴガシノ如ク毛色帯褐黄色
ニレテ黒色ノ斑點アリ常ニ樹木鬱蒼タル林中
ニ棲息シ往々牛馬ヲ殺ス又其涎唾ヲ垂レテ魚
類ヲ水面ニ引誘シ前足ヲ以テ直ニ之ヲ地上ニ
跑上レテ以テ餌食スト云フ
コシニセシ此獸ハ猫屬ノ一ニレテ北亞非利加
ニ棲息シ大サハゴガシニ等レク毛色ハ青白ヲ
帯ビタル黄色ニレテ黒色ノ斑點アリ其形狀ハ
虎ニ類似シ性質ハ特ニ最モ能ク類似ス貪食殘

忍ニレテ突然跳躍シ他獸ヲ攫殺ス其食ヲ求ムルニ能ク樹木ニ攀上レ餓極レバ彼是ノ別ナク生物ヲ驅逐スルノミナラズ人ヲモ逐ヒテ遂ニ其餌食トスル者往々之アリ

豹 此四足獸ハ猫屬中美麗ナル者ノ一ニレテ亞非利加ニ産ス身長ハ大凡三尺乃至四尺毛皮黄色ニレテ大ナル薔薇花樣ノ斑點アリ尾ハ甚長クシテ黒色ト白色トノ環ヲ嵌メタルモノ、如レ其性甚兇暴殘忍ニレテ羚羊、獼猴並ニ巢窟ヨリ奔逸スル處ノ小サキ四足獸ヲ食フ其行動

人輕快迅速ナルコトハ之ニ及ノ者ナシ之ヲ飼

畜スレバ少シク馴致スト雖モ決レテ害ヲ爲サ

ル如クニ飼養スルコト能ハス

獵豹 此獸ハ其性犬ト猫トニ涉ル者ニレテ形

體ハ亞非利加豹ヨリ較小ナリ脊部ノ毛ハ較黃

色腹部ハ白色ニシテ黒キ斑點アリ此獸ハ亞細

亞及亞非利加南部ノ地ニ棲

息ス印度ニテハ之ヲ家ニ畜

養レテ獵ニ使役スト云フ

虎猫 此獸ハ其性活潑ニレ

第一百六十六圖



獵豹

第百六十三圖



虎豹

テ身長サ二尺許毛色頗美麗ナ
リ鳥類及、獼猴類ヲ食ヒ常ニ亞
非利加及其近傍ノ亞細亞地方
ニ棲息ス

オンス 此獸ハ美麗ナル貓屬
中ノ一ニシテ波斯ニ産シ毛ハ

白色ニシテ整然ナラザル斑點アリ身長ハ大凡
ニ尺五寸許形態ハ貓ニ類似セリ羚羊及其他小
動物ヲ食フ

オシロト 此獸ハ美麗ナル貓屬中ノ一ニシテ

南亞米利加ニ産ス毛ハ灰色ニシテ濃黄色ノ斑

點ヲ具シ其輪廓ハ黑色ナリ身長二尺五寸許ニ

シテ鳥類及、小サキ四足獸ヲ食フ此獸ハ矯捷強

猛ナルヲ以テ他ノ貓屬ト區別ス

豪耳野貓 此獸ハ東西兩大陸ノ寒帶地方ニ棲

息スル貓屬ノ一ニシテ貓ノ如ク跳躍シテ鳥類

及、四足獸ヲ餌食レ食ント欲スル鳥類ヲ追逐シ

テ樹木ノ末梢ニ攀上ス其物ヲ視ルコト尤銳敏

ナリ亞米利加ニハ此獸ノ種三アリ一ハ尋常ノ

「ベリ、リネングス」即米利堅野貓ニシテ其大サハ尋

第百六十四圖



豪耳野猫

常猫ノ二倍アリ毛ハ較赤色ニ
 レテ褐色ノ斑點ヲ帶ヒ脚ト尾
 トハ短カキ者ナリニハ加拿大
 リーディングスニレテ博物家某氏ノ
 說ニハ之ヲ歐羅巴^{ヨーロッパ}リーディングス同
 種ノ者ト考定セリ三ハバンダ
 ル者ト思ハル然レドモ之ヲ知ルモノ甚稀ナリ
 亞米利加ニ産スル者ノ外諸國ニ産スルリーディング
 スノ種類尚數多アリ

第百六十五圖



カラカル

カウカ^{カウカ}ニ獸ハ昔入ノリーディングスト稱スル者
 ニシテ亞刺比亞亞比利加亞細亞等ニ産シ體ハ
 較狐ヨリ大ニシテ天性モ亦狐ヨリ
 猛悍強壯ナリ毛ハ脊部較赤色ニ
 レテ腹部ハ白色ナリ常ニ獅子
 遺食セル殘肉ヲ食フ故ニ獅子ノ
 後ヲ追ヒテ此地ヨリ彼地ニ到ル
 若其殘肉ナキトキハ^{ウサギ}兔家兔及鳥
 類ヲ捕ヘテ之ヲ飼食ス
 猫^{ネコ}家畜猫ハ其毛色種カナレドモ大概ハ黒色

黃赤色白色等ノ線條又ハ斑紋アル者ナリ元來
家畜猫ハ野猫ノ一種ニシテ之ヲ捕ヘ家ニ畜シ
テ馴致シタル者ハ世界中ノ諸國ニテ殆ド猫
ヲ見ザル所ナシ

家畜猫ハ元來亞米利加ニ産セザル者ナレドモ
見今此洲ニ棲息スル者ハ其初此洲ニ移住セン
人民ノ齎レタル種類ナリ家畜猫ノ最著ルキ性
質ノ一ハ常ニ自己ノ住スル家屋ノ局所ヲ記憶
セシト欲スル願慮アリ故ニ家畜猫ハ住家ノ各
室及家具ノ各品ヲ視察シテ一回其各室及家具

第百六十六圖



猫及犬

ノ位置等ヲ認知シ得ル
トキハ安心セル者ノ如
シ其飼主或ハ懇篤ニ已
ヲ保護スル人ニ向テ戀
情ヲ顯示シタル例少カ
ラズ然レドモ其人ヲ慕
フ心ヨリハ却テ居所ヲ

寵愛スルノ情深キ者ナリ總ヘテ猫ノ記憶ハ甚
強クシテ一回居住セシ所ハ決シテ忘失セズ又
野猫ハ林中ニ棲處シ毛ハ家畜猫ヨリ較長クシ
ウキトヤト

テ容易ニ樹木ニ攀上レ鳥類蝙蝠類及小キ四足
獸ヲ食フ或ル博物家ノ説ニテハ野猫ト加拿陀
ライングストヲ全ク別種ノ者ト爲セドモ亞米利
加ニテ野猫ト名ツクル者ハ即加拿陀ライングス
ナリ

哺乳動物綱

第四目 水陸兩生類

海狗屬 此屬ノ各所ノ海中ニ棲息スレドモ北
極地方ノ海中ニ居ル者多クテ其種類モ亦夥
シ體格ハ其生存ニ適應スルコト最妙ナリ水中

ニ入ルトキハ鼻孔ト耳孔トハ自閉塞スルヲ遊
クトキハ唯後足ノミヲ使用ス其陸上ノ運動ス
ルハ遲緩ニシテ氣力無ク體ヲ曳テ前進ス其狀
恰モ鰐蟲類ノ如シ

第百六十七圖



海獅

尋常海狗 此獸ノ油ト皮トハ
廣ク貿易並ニ製造ニ用ヰル緊
要ノ品タリ故ニ之ヲ得ンガ爲
ニ此獸ヲ殺スコト甚夥シト云
フ其身長サ大凡四尺乃至九尺
ナリ綠洲人ハ此獸ノ爲ニ生計

博物志卷五

ヲ營ムニ依リテ大ニ之ヲ貴重セリ

豎琴海狗 此獸ハ皮上ニ豎琴狀ノ黒色アルヲ

第百六十八圖



豎琴海狗

以テ之ヲ豎琴海狗ト名ヅク綠洲ノ海中ニハ數百頭ノ豎琴海狗群集跳躍ス蓋此獸ハ他ノ海狗類ヨリモ多量ノ膏油ヲ出ス者ナリ又熊狀海狗ハ群ヲ聯テ屢堪察加近傍ノ諸島ニ往來テ容易ニ死セザル者ナリ或ハ之ヲ海熊ト名ツ

クト云フ

被衣海狗 此獸ハ北海ノ濱ニ棲息シテ其壯ハ

頭上ニ寛キ衣ノ如キ奇異ナル物ヲ被リ之ヲ意

ノ如ク自由ニ膨脹ス身長サ一尺乃至一尺五寸

許毛ハ短クシテ褐色ナリ常ニ海岸ノ草ヲ食ヒ

鬱陶トシテ假寐レ多クハ睡眠ヲ以テ生ヲ送ル

者ナリ然レドモ其睡眠間ニハ必一個守兵ヲ立

テ不虞ノ警戒ニ供スト云フ其聲或ハ凜然トシ

テ猛キアリ或ハ喞々然トシテ豕ノ如ク呶クモ

アリテ其性甚險害ノ者タリ若此獸ヲ襲フトキ

博物學 卷五

ハ狂亂暴動レテ堅牢鞏固ナル齒ヲ怒ラレ克ク
其仇敵ヲ防ク者ナリ

右海狗類ノ外尚海象海獅綠洲海狗ノ如キ者數
多アリ

海馬屬 モールス、ホールス、ゴビーニウハ即

海馬ニシテ能ク海狗ニ似タル者ニエ屢海狗ト

錯認ス海馬ハ身長サ一丈二尺許重量ハ最大ナ

ル牛ノ二倍ニレテ上齶ノ兩側ニ各一條ノ大牙

アリ此牙ハ象牙ノ如ク大ニシテ一條ノ重量十

ポンド乃至三十ポンドアリ其體軀ハ短キ毛ヲ

蒙被セリ總ヘテ海馬皆北海ヲ除テ外甚稀少

ナレドモ北海ノ氷上ニ數百頭群ヲナシテ高

聲ニ吼ユルコト往々之アリ又銃ヲ以テ之ヲ狙

撃スルトキハ顛倒シテ海水ニ入ル其牝ハ仔ヲ

慈愛スルコト甚深クレテ之ヲ襲フ者アレバ自

己ノ身命ヲ抛テ之ヲ防禦ス故ニ仔ハ決レテ母

體ヲ離レズ蓋海馬ヲ獵取スルハ其多量ナル膏

油ヲ採ランガ爲ナリ

哺乳動物綱

第五目 袋獸類

博物學 卷五 三十七

此目ハ腹肚ノ外一袋狀ノ皮ヲ具有レ其兒子ヲ
 産ミ其袋内ニテ乳ヲ哺スル所ノ諸獸ヲ包有ス
 袋獸屬 此屬ハ數多ノ種ヲ包有ス勿爾吉尼袋
 獸ハ毛少レク帶白ノ灰色ナリ其白色ヲ帶フト
 見ユルハ長サ大凡三寸餘ノ白
 毛アルヲ以テナリ尾ハ太クレ
 テ黑色小サキ鱗ヲ被レリ此尾
 ヲ以テ樹木ノ枝ニ倒懸シ果實
 ヲ採リ或ハ其食ヲ可キ動物ヲ
 捕ル者ナリ足ノ構造ハ物ヲモ

第百六十九圖



袋獸

捕ル者ナリ足ノ構造ハ物ヲモ
 見ユルハ長サ大凡三寸餘ノ白
 毛アルヲ以テナリ尾ハ太クレ
 テ黑色小サキ鱗ヲ被レリ此尾
 ヲ以テ樹木ノ枝ニ倒懸シ果實
 ヲ採リ或ハ其食ヲ可キ動物ヲ
 捕ル者ナリ足ノ構造ハ物ヲモ

強ク握ルベキモノニレテ滑澤ノルモノト雖モ
 強ク之ヲ握リ得ル
 勿爾吉尼袋獸ハ夜間ノ動物ニシテ性怯懦ナリ
 然レドモ其樹木ニ攀登スルコトハ甚容易ニシ
 テ鳥類小キ四足獸小蟲類及果實ヲ食ノ深林樹
 木ノ窟中ニ巢ヲ作りテ晝間ハ其内ニ睡眠ス
 此獸ハ多ク亞米利加合衆國ノ暖地ニ棲息シテ
 之ヲ獵スル者少カラズ其肉ハ幼豚ノ肉ニ似テ
 亞米利加ノ土人ハ之ヲ盛饌ノ一ト爲セリ
 又此獸ノ牝ハ袋鼠ノ如ク下腹ニ袋狀ノ皮ヲ具

レ危難ノ際ニ望メハ袋中ニ兒子ヲ匿藏ス亞米
 利加合衆國ニ産スルノ他墨西哥南亞米利加新
 和蘭陀等ニモ亦數種アリ新和蘭陀ニ産スル飛
 袋獸ハ體軀大ナレドモ鼯鼠ニ類似セリ右等ノ
 種類中ニハ他ノ者ニ比スレバ皮袋ノ顯出スル
 コト少キモノアリ

蟹食袋獸 クニエチキモノ 此獸ハ南亞米利加ニ産シテ身長サ
 大凡一尺三寸捲握スベキ尾アリ常ニ海濱ニ棲
 息シテ蟹ヲ食フ其蟹ヲ捕ルニハ尾ヲ蟹ノ窟中
 ニ挿入シテ之ヲ引キ出スト云フ

袋粟鼠 ハラレモル 此獸ハ其種數多アリテ皆袋獸ニ類似
 シ其大者ハ大概猫ニ等シ或ハ新和蘭陀ニ産シ
 或ハ馬達加斯諸島ニ産ス其脚間一擴張スベキ
 皮ヲ具シ之ヲ以テ鼯鼠ノ如ク

第百七十圖



蟹食袋獸

握スベキ尾ヲ具ヘテ大サハ猫
 ノ如シ

第百七十一圖



袋獸

袋鼠屬

此屬ハ

其種大凡十二アリ一ハ

班地曼

蘭

澳大利

ニ産シ一ハアロ諸島ニ産シ

一ハギン

グニアアイランドニ産ス其他ノ者ハ皆新和蘭ニ

第一百七十二圖



袋鼠

産ス此獸類ハ皆後脚ノ長ク
前脚ノ短キコト、其跳躍ヲ
助ク可キ強壯ナル尾ヲ具ス
ルトニ因リテ著ルキ者ナリ
袋鼠ハ大ナル者ハ鼻ヨリ尾
端マテ長サ大凡九尺アリ一
般ノ毛色ハ淡褐色ニシテ頭

ト頭トハ小サク其形狀鹿ニ類似セリ

袋鼠ノ屬ハ皆前足ニテ草木ヲ引拔キテ之ヲ食

フ其草木ヲ把ル方ハ栗鼠ノ如ク腰上ニ體ヲ豎

立シテ之ヲ爲スナリ其性甚怯懦ニシテ獵人ヲ

避クルトキハ一躍ニ入リ過グ肉ハ甚貴フバ

キモノニシテ頗鹿肉ニ類似スト云フ其他袋鼠

ノ種ハ前條ニ記載レタルモノヨリ小ニシ

ノ如ク皆下腹ノ外ニ袋狀ノ皮ヲ具シ危難ノ際

ニハ其兒子ヲ袋内ニ潛伏セシム

負子袋獸 此獸ノ種ハ唯一ノミ毛ハ褐色大

カ

十
科
學
者
五

通常ノ犬ノ如クニシテ新和
蘭陀ニ産ス且毛甚濃クシテ
硬ク且長シ其牝ハ數時間子
ヲ脊ニ負ヒテ奔逸シ其下腹
ニ袋狀ノ皮ヲ具セリ

哺乳動物綱

第六目

靈齒類

栗鼠屬 スグイル 此屬ハ活潑ナル四足獸ノ一ニシテ大
概樹上ニ棲息シ體ヲ後足上ニ安置シ前足ヲ手
ノ如ク使用ス秋間ハ核子ヲ收拾シテ古木ノ空

第百七十四圖



栗鼠

窩中ニ貯蓄シ冬間ニ至リテ
之ヲ食ヒ生活ス狐狀栗鼠ホッキムスグイル猫
狀栗鼠ネコグイル黒色栗鼠クログイル灰色栗鼠等
ハ亞米利加合衆國ニ産スル
最大ノ種ナリ灰色栗鼠ハ世
人ノ能ク認知セル者ニシテ

其美麗ナルコト其矯捷ナルコト共ニ著シ其肉
ハ世人ノ賞翫スル處ニシテ食用ノ爲ニ之ヲ殺
スコト夥シ又之ヲ捕ヘテ籠内ニ畜フトキハ絶
エテ幽囚ノ憂ナキガ如ク愉快ニ踏車ヲ輾轉ス

博物

卷五

四

天部

第百七十三圖



負千袋獸

ル者アリ故ニ之ヲ籠内ニ畜ヒテ家室ニ置ク者アリ

亞米利加西方ノ邦ニハ夥多ノ栗鼠棲息セリ黒色栗鼠ハ屢レ劔鼠ノ如ク群ヲナシテ居テ他ニ移

ス者ナリ其尾ヲ帆ニ代用シテ阿海阿河ヲ渡ル處ノ黒色栗鼠ヲ見ルコト往々之アリ赤色栗鼠

即チチイッカリ一矯捷粗莽ナル者ニシテ眼前ノ樹枝ニ上リ人ヲレテ錯愕オドロキ擲掬ヲヒクセシムルコト往々

之アリ又線條栗鼠トリスハ常ニ亞米利加合衆國ノ林中ニ棲息シテ他ノ栗鼠ノ如ク樹木ニ攀上

セズ地中ニ穴ヲ穿キテ寝鼠ノ如ク冬間ハ其穴中ニ潛伏ス

此他合衆國ニ産スル栗鼠ノ種類數多アリ就中最著ルキ者ハ麗鼠ナリ此麗鼠ハ兩脇ニ前脚ヨ

リ後脚ニ廣カル所ノ膜アリ此膜ヲ擴張シテ樹木ノ梢上コリ斜ニ飛降ス故ニ一跳ニシテ十丈

餘ヲ過グルコト往々之アリ又落機山ニ産スル別種ノ者アリ其他上ニ記載レタル者ニ類似シ

テ他國ニ産スル者尚數多アリ
アイアイ栗鼠ノ屬 此獸ハ馬達加斯ニ産スル奇異

第百七十五圖



アイア

ノ者ニシテ大サ兎ノ如ク晝間
ハ多ク樹木ノ窩窟ニ棲息シテ
其習慣ヲ知ル者甚稀ナリ蓋此
獸ハ未ダ博物家ノ詳悉セザル
者ノ一タリ

土撥鼠 此獸ハ兩大陸ノ北部ニ産スル四足獸
ノ一屬ニシテ大概形軀ハ太トク脚ハ強壯ニシ
テ爪ハ力強ク齒ハ銳利ナル者ナリ此獸ハ地中
ニ穴ヲ掘リテ冬寒ノ來ルトキ退キテ穴中ニ潛
居ス其穴ヲ構造スルユト甚巧ニシテ出入スル

路兩個アリ此兩口ノ末ハ枯草及苔蘚ヲ以テ
被覆シタル暖室ト相通スルモノナリ
土撥鼠ハ同穴中ニ數頭群居スル者ニシテ冬寒
ニ至レハ身體腐癯ス故ニ冬令既ニ近ツクトキ
ハ穴口ヲ閉塞シ身ニ枯草ヲ被着シ春暖ノ回ル
ヲ待ツト云フトボツク及尋常土撥鼠ハ歐羅巴及
亞細亞ノ山中ニ産ス馬理蘭土撥鼠即ウイドヲ
ヨウクハ亞米利加合衆國ノ尋常物ニシテ往々
牧草ヲ食盡シ穀物ヲ掠奪シテ頗厭惡セララル
者トス馬理蘭土撥鼠ノ大サハ大凡家兎ノ如ク

博物學 卷五

レテ灰色ヲ帶ヒタル褐色ナリ

牧場土撥鼠即^{フライリーマウス}鼻ス、トシ、鼻ス。此獸ハ合衆國西

方不毛ノ地ニ棲息シテ地中ニ穴ヲ穿チ其中ニ

住居ス此巢穴ハ地ノ少シ隆起シタルヲ以テ直

ニ認知セララル、モノナリ此獸數方群集シテ不

毛ノ地ヲ領スレドモ屢^{タル}鼠、蛇、龜、蜥蜴等ノ爲ニ巢

穴ヨリ驅逐セララル、コトアリ蓋^{タル}鼠、蛇、龜、蜥蜴等

ハ自居所ヲ構造スルノ能力ナク却テ此勉勵セ

ル土撥鼠ノ穴ヲ奪ヒテ己ガ所有トナシ加之土

撥鼠ノ兒子ヲ殺スコト往々之アリ

白色土撥鼠即^{ホワイ}嘯者^{モリス}此獸恐怖スルトキハ銳キ

嘯聲ヲ發スルニ依リ之ノ嘯者ト名ヅク亞米利

加ノ^{ロッキー}岩石山ニ産ス土人ハ其肉ヲ食ヒ又其毛皮

ヲ以テ^{ブラケ}覆氈ヲ製ス其他亞米利加ニ産スル上撥

鼠ノ種類ハ佛蘭格林土撥鼠、力查遜土撥鼠^{ホル}

ド土撥鼠^{フランク}、ヒイチ^{ホル}土撥鼠^{ホル}、上撥鼠^{ホル}、バル^{ホル}

土撥鼠^{ホル}、ドーラス土撥鼠^{ホル}、短尾土撥鼠^{ホル}、グリス^{ホル}

等ナリ

鼠及鼯鼠屬 此屬ハ大概鼠類、鼯鼠類、包有ス

鼯鼠 此小獸ハ其種數多アレドモ皆鼠ト同屬

博物學 卷五

文部省

タリ尋常鼯鼠ハ殆隨處家々ニ棲息スル者ナレ
トモ其性怯懦ニシテ人目ニ觸ル、ヲ好マズ然
レドモ厨度ノ罅隙等ヨリ外出シテ猫ノ居ラザ
ルトキ或ハ童兒輩ノ静坐セルトモ牀上ニ奔走
スルコト往々之アリ

鼯鼠ハ元來亞米利加土產ノ者ニ非レドモ最初
此洲ニ移住セシ人ト共ニ歐羅巴ヨリ來リシモ
トス鼠モ亦鼯鼠ノ如ク歐羅巴ヨリ渡來セシ
者ナリ尋常鼯鼠ハ決シテ可憐ノ者ニ非ス其故
ハ乾酪ヲ食ヒ或ハ某物ヲ論セバ食リ食シ或ハ

第百七十六圖



木板ニ穴ヲ穿チ木村ヲ
噬齧シ家室ノ壁間ニ其
住居ヲ構造スレバナリ
鼠 鼯
世人犬及猫ヲ以テ尋常
鼯鼠ヲ驅逐シ或ハ種々
ノ係蹄ノ以テ之ヲ捕ヲ
ト雖モ尚人家ニ棲息シ

テ常ニ其餘敵中ニ居宅ヲ構フル者ナリ又尋常
鼯鼠ハ土地ノ如何ヲ論ゼズ人ノ行ク所ニハ必
從行人然レドモ決シテ人ニ接近スル者ニ非レ

博物學 卷五

四五

文部省

博物志卷五

鼯鼠ノ他種ハ歐羅巴ニ産スル野鼯鼠收納鼯鼠
侏儒鼯鼠等ト亞米利加ニ産スル野鼯鼠收地鼯
鼠ノ數種跳鼯鼠ハ其形狀跳鼯鼠ノ如クシテ前足極メテ
短ク後足極メテ長シ入之ヲ追
フトキハ五尺乃至六尺許ヲ跳
躍前進ス其狀恰鳥ノ飛翔スル
カ如シ又博物家某氏ハ之ヲ鼠
屬中ノ鼠及鼯鼠トハ別種ノ者
ト考定セリ

第一百七十七圖



收地鼯鼠

第一百七十八圖



牡蠣捕テタル鼠

此四足獸ハ甚夥多
ニシテ其種全世界ニ散
布ス其主眼ナル者ハ褐
色鼠即那威鼠ナリ此鼠
ハ元來波斯及印度ヨリ
渡來セシ者ナルガ見今

ハ歐羅巴及亞米利加ノ各所ニ産ス身長廿大凡
九寸許ニレテ毛ハ帶灰褐色ナリ此獸ハ昔時英
吉利ニ夥シク産セシ
黒色鼠ノ種類ヲ剿絶シタ
リト云フ

褐色鼠ハ果實及穀物ヲ食フ者ニシテ其數甚夥
多ナルカ爲ニ其殺サル、數モ亦非常ナリ此獸
ハ雜鳥及小動物ヲ殘害スルノミナラズ同種類
ヲモ殺スモノナリ而シテ其冬寒ニ逢フトキハ
軀體麻痺セザレドモ晴日ニハ險ヲ冒シテ必ス穀
倉又ハ地窖等ヨリ其食物ヲ運出シテ能ク之ヲ
貯蓄スト云フ

水鼠 多トラント 此鼠ハ屢淡水中ニ入り魚類ヲ食フ者ニ
シテ足ニ蹼蹼ヲ具セザレドモ其水ヲ游ガコト甚
容易ナリ歐羅巴及亞米利加ノ各所ニ産シ殊ニ

北亞米利加ノ各所ハ頗兼ヲ有スル鼠ノ種類
數多アリ就中最モ著ルキ者ハ「カマス鼠」或ハ「
」ト云ヒルナリ蓋シ此等ノ鼠ハ皆鼯鼠ノ如ク地中ニ
穴ヲ穿テ其他鼯鼠ニ類似セル所甚多シトス
腮鼠 此四足獸ハ鼠屬ニ類似シテ身長サ八寸
許脊部ハ帶赤灰色腹部ハ黒色ナリ歐羅巴及亞
細亞ニ産シ地中ニ穴ヲ穿テ其中ニ冬間食糧
ノ穀物ヲ貯蓄ス此獸ノ種類甚數多アリ
跳鼠 シムボア 此獸ハ身長サ六寸許ノ奇ナル者ニシテ
前足極メテ短ク後足極メテ長シ其逃走スルト

長サ五寸許毛ハ黄褐色ニシテ黒キ斑點アリ後
足ハ前足ヨリ稍長クシテ駈走スルコトハ頗ル適
當ス其移住ヲナスニ大凡十年ニ一回ナリ此移
住恐クハ食物ノ欠乏スルコト、其種ノ非常ニ
増加スルコト、其嚴寒豫防ノためトニ依リテ
爲ス者ナラン其之ヲ爲ス毎常秋間ニ於テス而
シテ其年ノ冬ハ寒凶殊ニ甚シト云フ
此獸ノ移住ヲナスニ晝間ハ休息シ夜間ニ至レ
バ方陣ヲ作りテ行進ス其行進ヲ初ムルトキハ
何物ニ之ヲ仰過スルコト能ハス直行前進シテ

決シテ退却スルコトナレ若其途中ニ湖河等
レバ皆水中ニ躍入シ游泳シテ之ヲ渡ル其間又
舟艇ニ撞着スルトキハ之ヲ避ケス直ニ舟側ヨ
リ攀登シ舟ヲ超越シテ前進ス或ハ又路上ニ堆
積シタル枯草アルキハ之ヲ巡廻セズレテ直ニ
堆艸中ニ嚙ミ入り以テ能ク經過ス此獸ハ斯ノ
如ク行進スル故ニ路上ノ草木ヲ荒蕪レ牧地等
ヲ過キタル跡ハ殆焼痕ノ如ク爲ス者アリ斯ク
路上ニ於テ信シ難キ程ノ狼籍ヲ行ヒタル後互
ニ相争鬪シテ斃死スル者多ク時トシテ斃數四

博物志 卷五 四九 大野翁

千生鳥 五三

五千ニ滿テ數里四方ノ空氣ヲ汚穢ニ爲スコト
之アリ又邦威劍鼠ノ外歐羅巴及亞細亞ニ産ス
ル劍鼠ノ種類數多アリ亞米利加ニ産スル者モ
亦四種アリテ其ニハ未^レ其習慣ヲ審ニセザル者
多^レ

跳兔屬 此屬ハ唯一種ヲ有スルノミ其大サハ
兔ノ如ク毛色ハ光澤アル鹿兒ノ毛ノ如ク尾ハ
長キ流蘇ノ狀ヲ具ス亞非利加州喜望峯ノ地方
ニ産^レテ深キ穴中ニ棲息セリ
盲鼠 此奇獸ハ尾ヲ具セズ^レテ地下ニ棲息^レ

目ハ皮ト毛ヲ以テ被覆スル故ニ外部ヨリハ見
ル可ラズ毛ハ灰色ニ^レテ體軀ハ鼠ヨリ較大ナ
リ即昔人ノ盲目鼯鼠ト稱スル者ニ^レテ亞細亞
ノ數部及魯西亞ニ産ス

海狸 此奇獸ハ形體及習慣ニ
於テ他ノ四足獸ト甚殊異ナル
者ニ^レテ長サ二尺許高サ一尺
許尾ハ扁平ニ^レテ鱗ヲ被リ水
中ニテ舵ノ如ク之ヲ使用ス記
者某ノ說ニハ其住居ヲ塗ルト

第百八十一圖



海狸

博物學 卷五 幸 文邦省

キ此尾ヲ鏝ノ如ク使用スト云フ又後足ハ蹠ヲ具シ前足ハ之ヲ栗鼠ノ如ク使用ス其毛ハ通例光澤アル褐色ナレトモ唯亞米利加ノ北部ニ産スル者ハ多クハ黒色或ハ白色或ハ斑點アリ其齒長クシテ銳シ此長銳ナル齒ハ其住家ヲ造ル爲ニ樹木ヲ伐リ取リ或ハ之ヲ齧ニ推ク爲ナリト云フ

海狸ノ住居ハ池又ハ河ノ邊ニ木材泥石等ヲ以テ築造シ冬寒来レハ更ニ粘土ヲ以テ其外面ヲ塗ル其河流中ニ造營スルトキハ家ノ建築ニ用

井ル品料ヲ以テ堤防ヲ築キ水勢ヲ減殺ス云テ蓋此建築ニ用井ル木材ハ大概其齒ヲ以テ之ヲ伐リ上流ヨリ下シタルモノナリ

海狸ノ家ハ大抵每一戸ニ夏間動作スル者十頭ヲ容ル此十頭ハ各自選擇シタル食物ヲ餌ト爲シ冬時ニ至レバ木材ヲ食ヒ夏時ハ果實草木樹皮魚類等ヲ食フ總ヘテ此獸ヲ獵スルハ交易重要ノ品タル毛皮ヲ得ンガ爲ナリ又此獸ハ海狸カスト香ト名ヅクル膏油ヲ備ヘタリ凡ノ此獸ノ習慣ヲ認知シタル人ハ皆其才智ノ他ノ四足獸ニ卓

越セルコトヲ驚嘆セザルハナシ

豪猪 此四足獸ハ其種類數多アリ歐羅巴ニ産

スル尋常豪猪ハ身長サ二尺許ニシテ尖銳ナル

長刺ヲ以テ被ヘリ其仇

敵ヲ防クニ當リテ先一

方ニ横卧シテ突然他方

ニ轉回シ尖刺ヲ以テ能

ク仇敵ヲ刺ス者ナリ蓋

此刺ノ性質甚有毒ハモ

ノニシテ之ガ爲ニ蒙リ

圖二十八百第



猪豪

タル創傷ハ頗難治ナリ此他豪猪ノ種類ハコ

アンド「豪猪及「ユルソ」即加拿他豪猪等アリテ

「コ」アンド「豪猪ハ肉食ノ者ナリ加拿他豪猪ハ

多ク杜松樹ノ皮ヲ食ノ又亞米利加ノ土人ハ豪

猪ノ刺ヲ用井テ衣服ノ飾具ニ供スト云フ

鼯鼠 此小獸ハ鼯鼠ノ一種ニシテ智利國ニ産

ス身長サ九寸許尾ハ甚長ク毛皮ハ美麗ノ灰色

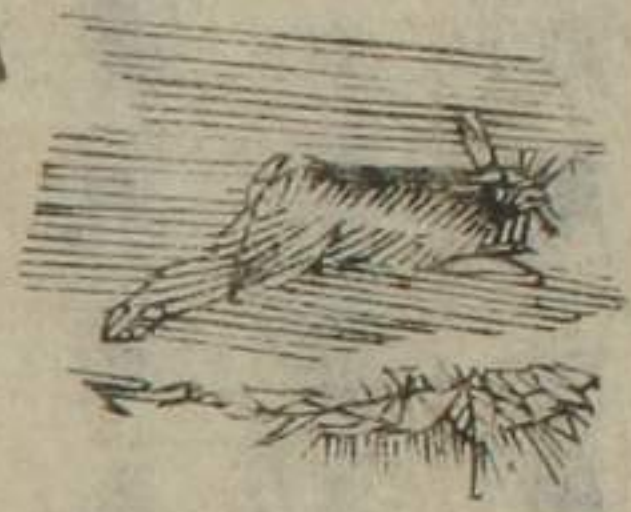
ニシテ白キ斑點アリ此毛皮多クハ帽子及暖手

套ノ用ニ供スル者ナリ

魂 此物ハ其種類數多アンドモ皆能ク動搖ス

第百八十三圖

兔



ズキ長耳ヲ具スル
軟弱美麗ノ小獸ナ
リ目ハ甚凸起セル
ヲ以テ前後ヲ看視
レ得ベシ前脚ハ後

第百八十四圖

兔鼠



脚ヨリモ短キガ爲ニ丘山ヲ攀登
スルコト甚容易ナリ其跳走スル
ユーハ鹿ノ如クナレドモ決シテ響
ナレ其故ハ足ニ軟胞ヲ具
フルヲ以テナリ兔類ハ多ク夜間ニ
於テ草類根葉果實穀物等ヲ食ヒ
或ハ樹皮ヲ食フコト往々

之アリ總ハテ兔類ハ之ヲ畜養レ得
ベシ其能ク馴致スルトモキハ銳敏ト
戀情トヲ顯ハスモノナリ
英吉利ニテ兔ヲ獵ルコト甚夥シ
一日ノ遊獵ヲ以テ四五百頭ヲ獲ル
コト往々之アリ歐羅巴ニ
産スル尋常兔ハ身ノ長サ二尺許
ニシテ毛ハ帶褐赤色ナリ
亞カ伯兔ハ身ノ長サ一尺許ニシテ
歐羅巴及亞細亞ノ北部ニ産ス
オゴトナ兔ハ亞カ伯兔ニ類似セル
者ニシテ同地方ニ産ス
叫兔ハ魯西亞ノ土産ニシテ
褐色ナリ

ル柔軟平滑ノ長毛アリ其聲ハ鶉ノ鳴クガ如ク
ニシテ三四回復鳴レ隔リタル所ニ在リテ之ヲ
聞キ得ベレ

米利堅兔ハ合衆國ニ於テ在テ家兔ト稱ス北亞

米利加ノ各地ニ通常棲息スルモノナリ年々其

肉ト皮トノ得シガ爲ニ之ヲ殺スコト甚夥ノ此

兔ハ歐羅巴ニ産スル兔ノ如ク地中ノ穴ニ棲息

セバニシテ樹木及岩石ノ窩窟ニ居住スワットルチ

イノ兔ハ岩石山ニ住シテ銳キ固有ノ叫聲ヲ發

スル者ナリ北極兔ハ巴塔灣ノ近傍ニ産シテ全

ク白色ナリ牧場兔ハ米蘇利州産シテ濃白色ノ

毛皮ヲ有ス

兔ノ耳ハ善ク遠隔ノ聲ヲ聞クニ適當シ目ハ自

己ノ周邊ヲ善ク觀覽シ得ベク其睡眠間ト雖モ

決シテ全ク閉ダス總ベテ兔ノ事物ヲ恐懼スル

習慣ハ其性薄弱ニシテ且速ニ馳走シ危急ヲ逃

避シ得ベキガ爲ノ天資ニ出ソル者ナリ

家兔 此小四足獸ハ兔ト同屬ニシテ元來亞非

利加及西班牙ノ土産ナレドモ見今ハ諸國ニテ

之ヲ畜養ス其種類ハ數多ニシテ毛色モ亦黑白

第百八十五圖



家兔

灰色等種々アノドモ元來較黃色
ヲ帶ビタル灰色ノ者ニシテ身ノ
長サ大凡一尺五寸許ナリ

荷蘭猪ス豚 此獸ハ巴拉圭及伯
西爾ノ土産ナレドモ寒温兩帶地

方ノ諸國ニ在リテ養ヒ得ベシ家兔ニ比スレバ

小ク毛色種々アリテ尾ヲキ者ナリ性沈着ナラ
ズ核子及果實ヲ食ヒ豚仔ノ如キ哀聲ヲ發ス又

其毛皮ヲ清潔滑澤ナラシメシカ爲ニ甚時間ヲ

費スト云フ而シテ其皮ハ廉價ニシテ肉ハ味々

シ方今ハ諸國ニ於テ尋常ナル小獸トシレリ

小豚即トシテ此獸ハ南亞米利加ニ産シテ

其大サハ小豚ノ如ク足ニ蹠アリテ能ク游泳ス

魚類草根及甘蔗ヲ食フ者ナリ

第百八十六圖



小豚

金兔 此四足獸

ハ南亞米利加及

西印度ノ暖地ニ

産スル者ニシテ

大サ殆兔ノ如ク

樹木ノ窩窟中ニ

第百八十七圖



金兔

棲息之諸種 食物之貪食スレドモ多クハ根ト
果實トヲ食フ後脚ハ前脚ヨリモ甚長ク其食物
ヲ口ニ送ルニ栗鼠ノ如ク前脚ヲ使用ス此獸ノ
形ハ鼠ニ類似スレドモ尾ハ甚短キ者ナリ

第百八十八圖



類獸

類獸 此四足獸ハ稍豚ニ類似
テ頭圓ク鼻短ク脚亦甚短シ
濕熱地方ノ河畔ニ穴ヲ穿チ
其中ニ棲息シ根ヲ食フ南亞米
利如用有ル者ナリ

哺乳動物綱

第七目

無齒類

樹懶 此四足獸ハ其種類ニアリ一ヲアイト曰

フ三個ノ足趾ト短尾トヲ具ス一ヲユナウト曰

フ尾ナクレテ前脚ニハ只二個ノ足趾有リ凡ハ

テ樹懶ハ脚ヲ以テ其身ヲ樹枝ニ掛ケ樹木上ニ

棲息シ其經過スルトト稀少ニ

シテ多クハ單獨ナリ蓋長爪ヲ

以テ樹枝ヲ把握シ速ニ枝ヨリ枝

ニ轉徙シテ木葉ヲ食ヒ南亞米

第百八十九圖

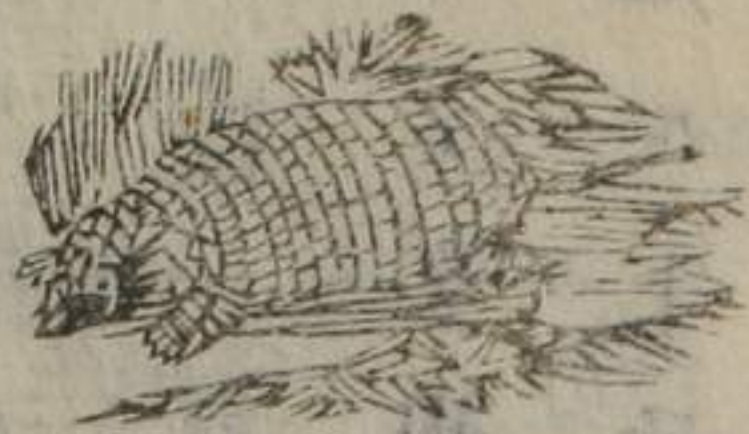


樹懶

利加ノ深林樹上ニ在リテ長久ナル旅行ヲナス
ナリ

「リスストル、名トルトニシテ屢樹懶天然ノ状態ヲ見
ルベキ機會ヲ得テ其稟生ノ記事ヲ明亮ニセリ
樹懶ハ身ノ長サニ尺許ニシテ地上ヲ運動スル
コト甚難シ蓋昔時ノ説ニ樹懶ハ數日間殆運動
セス一樹上ニ留^ス在スル者ト想定セリ故ニ之ヲ
樹懶ト名ヅク也」
帶獸此四足獸ハ其種類數多ニシテ互ニ相類
似スレトモ大サト形ノ造構トハ相異ナリ頭尾

第百九十圖



帶獸

棲息シ草木果實及根ヲ食フ

帶獸ノ行歩ハ速ナレドモ樹木ニ攀上シ且奔走
スルコト能ハス故ニ之ヲ追逐スルトキハ迅速
ニ地ヲ穿テ其穴ニ入ルノ他別ニ手段ナシ獵人

其他凡ヘテ上部ヲ被フ鏡狀ノ
如キ物アリテ甚堅牢ナラサレ
トモ膜ヲ以テ互ニ接合シタル
數片ヨリ成ル此獸ハ多ク南亞
米利加ニ産スル者ニシテ家兎
ノ如ク砂丘ノ中ニ穴ヲ穿チテ

ハ之ヲ其穴ヨリ驅リ出サンガ爲ニ烟火ヲ以テ
 薰灼スト雖モ常ニ之ヲ捕ヘ得ルコト能ハス其
 故ハ人ノ穴ヲ掘ル間ニ彼モ亦穴ヲ穿テ薰烟ヲ
 拒タ爲ニ泥塗ヲ以テ穴口ヲ杜塞スレバナリ又
 小犬ヲ驅リテ之ヲ追捕スル時ハ此獸體軀ヲ短
 縮シテ彈丸狀トナリ搬運セラル、ニ任ス又險
 阻ノ處ニ在リテ人ニ追ハル、トキハ體ヲ毬狀
 ニナシテ難ナク崖下ニ滾轉シ以テ追者ノ捕獲
 ヲ免ルト云フ

食蟻獸

南亞米利加ニハ此獸ノ種三個アリテ

等百九十三圖



食蟻獸

皆相類似スレドモ大サハ異
 ナリ大食蟻獸ハ身ノ長サ四
 尺許ニシテ尾ハ二尺五寸許
 アリ其舌二尺許アリ口内ニ
 テ重疊ス此口ハ決シテ開カ

ガル者ナレドモ能ク小孔ヲ通シテ舌ヲ口外ニ
 出ス鼻ハ甚長ク毛ハ黒色及白色ナリ
 食蟻獸ハ深林ニ棲息シ粘液ヲ抹シタル長舌ヲ
 出シテ蟻垤ヲ搜索シ能ク蟻ヲ餌食ス此獸ハ危
 害ヲ爲サハル者ニシテ決シテ他ノ動物ヲ襲フ

トトナレ然レドモ若之ヲ苦惱セシムル者アレ
ハ強爪ヲ以テ其者ヲ擱殺スト云フ

第百九十二圖



鱗獸

鱗獸即鯨鯨セウサンダ此獸
ハ南亞米利加ニ産
スル一屬ニシテ身
ニ鱗アリ舌ハ長ク
シテ食蟻獸ノ如ク
其種類ニアリ身ノ

第百九十三圖



鴨嘴獸

長サ大凡一尺五寸乃至一尺二寸專蟻ヲ食フ者
ナリ

鴨嘴獸

此四足獸ハ新和蘭陀ニ産シテ足ニ奇

ナル蹠ヲ具レ多ク江河ニ棲息シ蟲類及水中ニ
生スル小蟲類ヲ食フ體ハ冰瀨ノ如ク毛ハ海狸
ノ如ク嘴ハ鴨ノ如クシテ身ノ長サ一尺三寸許
ナリ

哺乳動物綱

第八目 厚皮類

緣 此獸ハ見今世界中ニ存在セル諸四足獸中
ノ最大ナル者ニシテ太古ヨリ世人ニ認知セラ
レタリ而シテ其種ニアリ一ハ亞細亞ニ産シ一

ハ亞非利加ニ産ス亞細亞産ノ者ハ身ノ長サ一丈許ニシテ亞細亞大洲並ニ其諸島ニ棲息ス亞非利加産ノ者ハ亞細亞産ニ比スレハ甚大ナラズシテ昔時ノ希臘人及羅馬人ノ使用シタル者ト定メテ同種ナル可シ此獸ノ尋常ナル毛色ハ灰色ニシテ其白色ノ者ハ極メテ稀少ナリ東方諸國ノ君主ハ白象ヲ以テ甚貴重ス又往々赤色ノ者ヲ産スルコトアリト云フ

象ノ眼ハ小ナレドモ視官銳クシテ人ヲ感動セシハルコト往々之アリ其聽官ト嗅官トモ亦銳

敏ニシテ時トシテハ鼻ヲ以テ善ク花類ノ香氣ヲ區別シ其嗜好スルモノヲ嗅クト云フ

象ノ通常食物ハ牧草樹根樹葉及柔軟ナル樹木



第百九十四圖

ノ枝等ナリ或ハ往々大樹ヲ引抜キテ液汁多キ長根ヲ食フコトアリ象ハ江河近傍ノ林中ニ棲息シテ水ヲ游クコト甚容易ナリ元來群居ノ獸ニシテ

博物學 卷五 六

博物學 卷五

大概出入共ニ群ヲ成セリ且甚強大ノカアリテ
二千「ポンド」ノ重量ヲ負擔シ得可シ
象ハ其鼻ヲ具スルガ爲ニ著名ナレドモ若鼻ナ
キトキハ形體拙劣四肢鹵鈍ニシテ殆無狀ノ者
ナルベシ然レニ其鼻ハ強カアリテ善ク手ノ諸
用ヲ達シ針ノ如キ小物ヲ撿取シ人ノ如キ大物
ヲモ頭上ニ舉起シ又其食物ヲ採リテ之ヲ食フ
彼ノ交易重要ノ品タル象牙ハ上腮ノ兩側ニア
リテ身體保護ノ爲ニ之ヲ使用スル者ナリ
象ハ極メテ順良ナルガ故ニ甚馴致シ易シ之ヲ

畜養スル時其銳敏ナルコトヲ顯ルタル數多ク
說話アリ故ニ象ハ理非ヲ辨スルノ性ヲ有スル
者ナリト吾輩ハ之ヲ想定セリ又象ハ非常ニ恩
ヲ感シ深キ愛情ヲ顯ハレ自己ノ勢力ヲ踰ニテ
熱心才智誠實ヲ以テ其主ニ奉仕スルニト往々
之アリ
嘗テ印度ニ於テ象ヲ用井大船ヲ水ニ下ストキ
象己ノ勢力ニ過越シタル熱心ヲ顯ハシタルコ
トヲ一例ヲ左ニ舉クベレ嘗テ大船ヲ下ストキ
一頭ノ象ヲ以テ之ヲ引カシメタリシガ象ハ勉

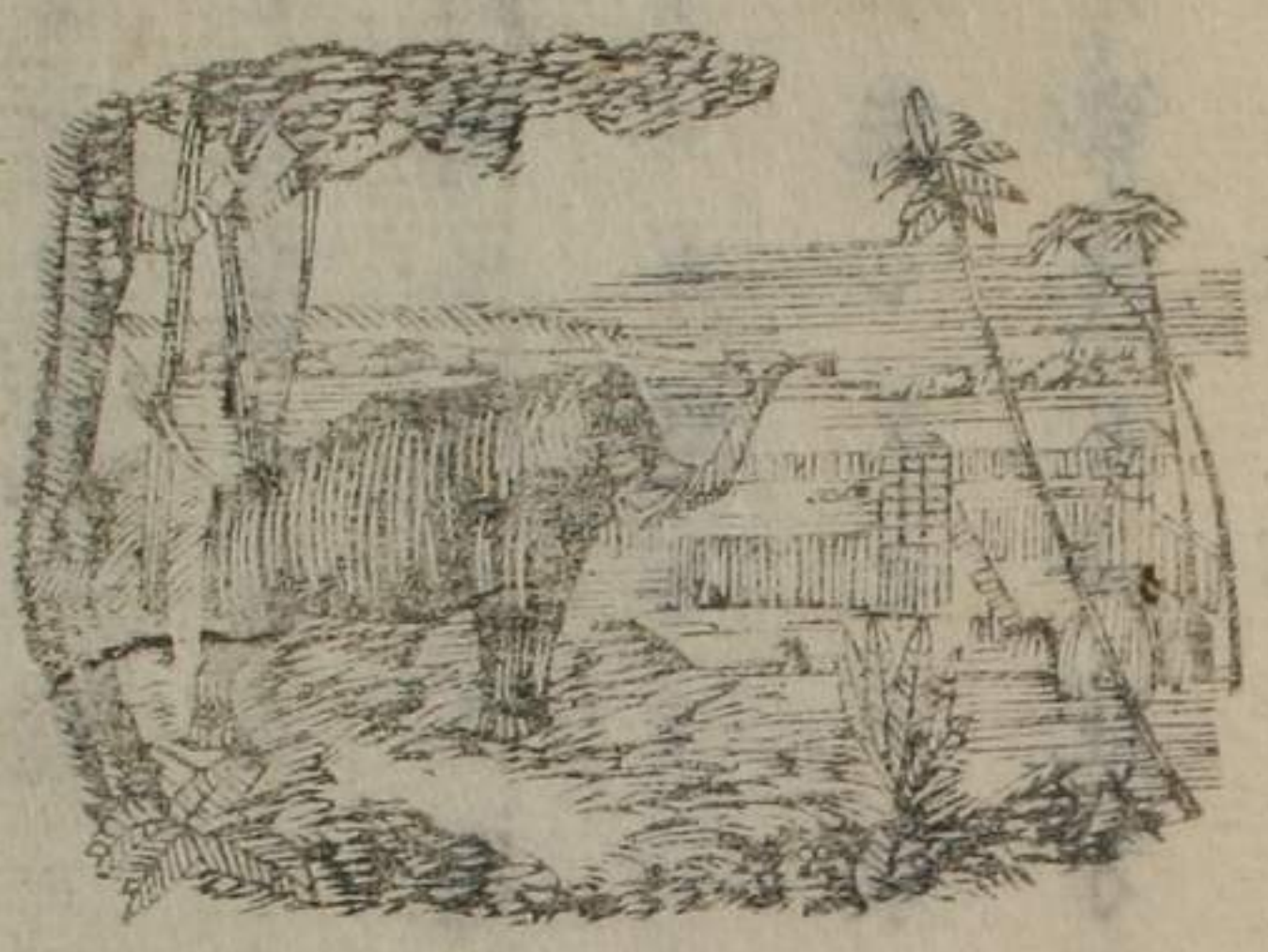
博物學 卷五

六上

文部省

勵_レテ之ヲ引_クト雖_モ元來此事ハ太其力ニ過
 タリ然ルニ其飼主ハ象ノ怠惰ニ_レテ之ヲ爲_サ
 ルコト一思ヒ大呼_レテ曰ク此懶惰ナル獸ヲ
 廢除_シ更ニ此用ニ適_スベキ他獸ヲ引_キ來_レト
 象其言ヲ聞_キ即憤然ト_レテ二倍ノ力量ヲ出_シ
 タリレガ遂ニ其頂骨ヲ破_リテ斃死セリ
 亞細亞ニテ象ヲ獵ルコトハ君主ノ遊樂ナリ亞
 非利加ニテハ象ノ肉及_テ齒ト牙トヲ得_シガ爲_ニ
 之ヲ獵獲ス又印度ニテハ野象ヲ捕ルノ法ハ善
 ク馴致_レタル牝象ヲ放_チ媒トナ_シテ之ヲ誘_フ

第百九十五圖



媒用ナル牝象

郊野ニ出_テ野象ヲ見_レハ則
 速ニ牝象ヨリ下_リテ之ヲ放
 ツ此獵ニ馴_レタル牝象ハ此
 時ニ方_リテ強_テ野象ノ心情
 ヲ動_サシムルユエニ獵夫ハ
 其親狎スルノ機ヲ伺_ヒ注意
 シテ野象ノ傍ニ進_ミ堅牢ナ
 ル繩ヲ以_テ其脚ヲ繫_キ之ヲ大樹一結_テ野象
 ノ鎮怒スルマデ放棄_シテ彼ヲ餓_エシムルナリ

其饑餓極リタルトキ繩ヲ釋キ牝ト共ニ之ヲ家ニ牽引ス善ク養馴致シタル處ノ牝象ハ好ミテ其職分ヲ盡シタル左ノ奇談アリ左ニ載ス
貴人某氏一頭ノ牝象ヲ買ヒシガ其先如何ニ之ヲ使役セシヤヲ詳ニセズ然ルニ此象ハ御者ノ間隙ヲ伺ヒテ遁逃シ凡一週間ノ餘家ニ居ラザリシガ突如トレテ歸來一リ故ニ其主人ハ裝具ヲ施シテ之ニ乘リ外出セシニ此象ハ頻ニ草木ノ繁茂セル地方ニ進向セントス御者屢制止シテ彼ノ行ント欲スル方ニ進マンメザリケレバ

象ハ全ク執拗^{カクイナ}シテ御者モ之ヲ止ムルコト能ハズ遂ニ草木ノ繁茂セル地ニ駈走シ大木ノ側ニ來リテ止マリタリ主人驚キ見レバ其處ニ某夜嘗テ此牝象カ自己ノ鏈ヲ以テ大木ニ縛シタル大牝象アリシト云フ
家畜象ノ勞カスルニトハ印度ニテ桶類俵類荷物等ヲ運送スルニ皆象ヲ使役スルコトニ因リテ明瞭ナリ凡ヘテ象ハ脊頸及牙ニテ重物ヲ運送スル者ニシテ其物ノ落下セザル様ニ注意シテ負擔セシムレバ之ヲ濕スコトナク脚船一搬

運ス又出陣ノ時ハ兵卒並ニ輜重ヲ運送スルニ

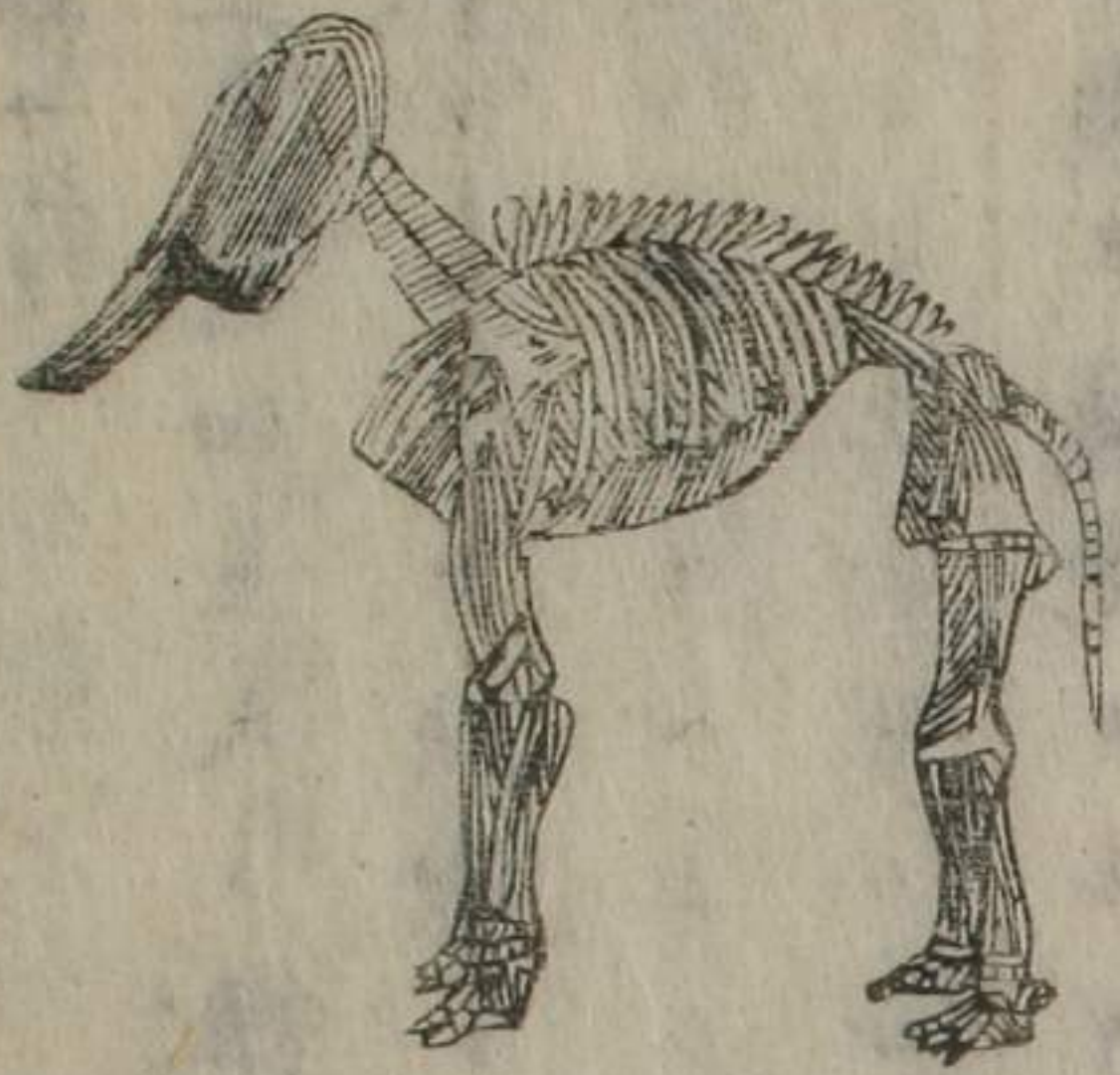
第百九十六圖



此獸ヲ使用ス蓋象ハ戰場ニ在リテ人命ヲ重シ其創傷ヲ蒙ルニ非レハ決シテ路傍ニ横卧シタル重傷人死人等ヲ踏躓セズ其鼻ヲ以テ死傷者ヲ安全ノ場所ニ送致スルコトアリ夫ノ

昔時戰鬪ニ象ヲ使用セシコトハ世入ノ能ク聞知セル所ニシテ之ヲ以テ帝國ノ勝敗ヲ決セシ

第百九十七圖



「マストドン」

「マストドン」例モ亦少カラズト云フ其大ニシテ見今ハ既ニ動物化石論ノ編ニ記載シタル者ニシテ見今ハ生存ヤザル動物ナリ其大古ニ生存ヤシコトハ唯亞米利加合衆國ノ數所ニ於テ深キ地中ヨリ掘出シタル骨ヲ以テ知ルノミ此骸骨ノ殆全キモノハ合衆國費拉地費ノ博物館ニ陳列

セリ此獸ハ象及犀ニ類似シテ其大サハ象ノ二倍ナリ

亞米利加土人ノ傳説中「マストド」ニ就キテ數說アレドモ此獸ノ林中ヲ徘徊セシコトハ其年世ヲ確知スベカラズ恐クハ數千年前ノコトナラン又其如何ナル原由ニ依リテ「マストド」ノ種類ヲ滅絶セシヤ未之ヲ詳ニセズ且其記事モ數千年來曖昧タリ此獸ハ草木ヲ食フ者ニシテ恐クハ害ヲ爲サザルモノナニシテ又想フニ此獸ハ河岸ニ群集シ土地ヲ震動シ其大ナル足ニテ

野生ノ草木ヲ蹂躪セル者ナラシ然レドモ是等ノコトハ皆其骸骨ヲ掘出レタル場ニ就キテ只想像ヲナスノミ世人「マストド」ノ骸骨ヲ掘出シ以テ其機關ノ造法ヨリ性質及習慣ノ說ヲ立ツレドモ皆曖昧ニ屬セリ蓋「マストド」ハ本洲ニ於テ未タ人民ハ棲息セザル以前ニ生存セシ者ニシテ恐クハ數世期ノ間洲内林野ノ王トナリノ人民ノ此地ニ繁殖スル頃マテ生存シ人民繁殖スルニ從テ慘酷ニ之ヲ獵獲シ遂ニ其種ヲ滅絶シタルモノ

十小島
一三五

ナラン而シテ上文ノ條件ハ皆想像ニ出ル者ニ
シテ到底此獸ノ説話ハ悉皆神秘ニ陷入セザル
ハナシ

河馬
トホダミ

此獸ハ四足獸中巨大ナル者ノ一ニシテ

第一百九十八圖



河馬

身・長サ一丈二尺高サ六尺ニ
及ブモノアリ體軀甚重ク脚短
ク頭極メラ大ニシテ皮極メテ
厚シ亞米利加州ニ産シテ常ニ
河岸暗陰ノ地ニ棲息シ危急ニ
臨メハ水中ニ没入ク大概夜間

ニ草類ヲ餌食ニテ能ク水ヲ游キ容易ニ水底
行歩スル者ナリ亞非利加ノ土人ハ此獸ノ肉ヲ
以テ滋味ノモノト定ム

第一百九十九圖



馬河及卒兵人黒

マジョルデンハハ氏
ノ中部亞非利加紀行
中ニ曰ク「ナツド」湖傍
ヲ行進セシ黒人兵卒
ノ音樂ノ響ニ依リテ
數百ノ河馬湖水ノ面
ニ現出シタリ此河馬

博物

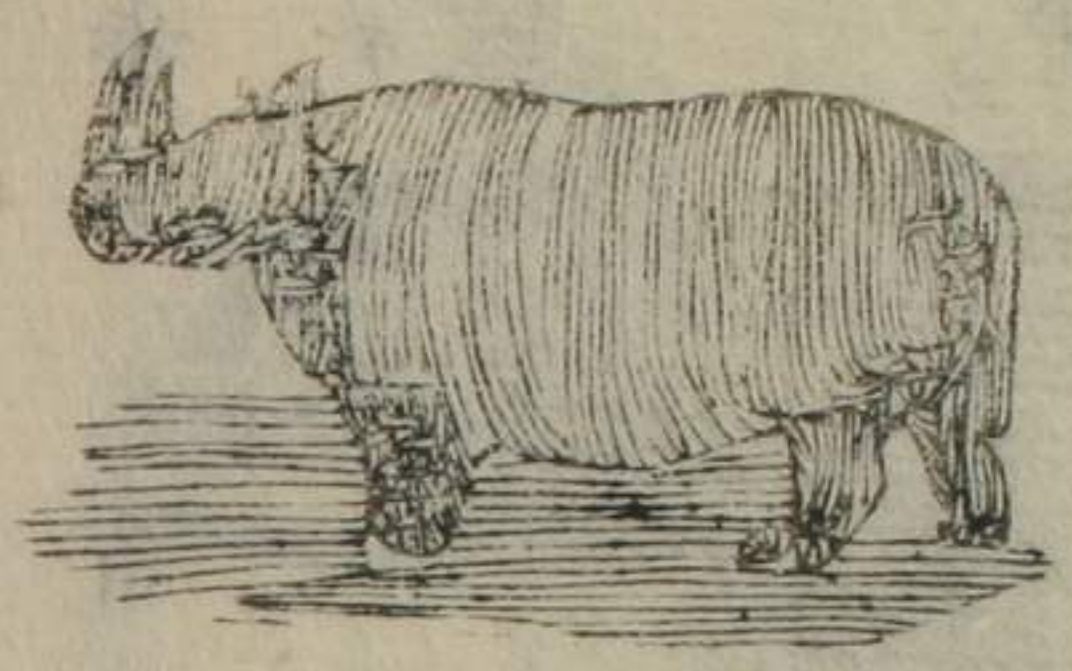
卷五

六六

文部省

ノ水面ニ出タルハ樂響嘈鬧ノ原由ヲ知ラント
欲スル爲ナルカ或ハ兵卒ノ隊列ヲ見レト欲ス
ル爲ナルカ得テ知ル可カラスト云フ

第二百圖



二角犀

犀 此四足獸ハ其種類數多ア
ル者ニシテ印度、蘇馬答刺南亞
米利加等ニ産シ或ハ鼻上ニ二
角ヲ具スル者アリ或ハ唯一角
ヲ具スル者アリ身ノ長一丈
二尺許皮ハ黒クシテ厚ク其脇
ニハ奇異ノ皺皺アリテ彈丸モ

透徹シ難シ其習慣ハ河馬ノ如ク好ミズ水中
游泳シ常ニ身體ヲ泥塗ニセリ且其堅角ヲ以テ
多液ノ樹木ヲ折裂シ之ヲ飢食ス其性猛烈ニ非
ザレドモ怒ルトキハ頭ヲ垂レ角ヲ奮ヒ敵ニ向
ヒテ猛進シ虎ト雖モ退却セズ遂ニ彼ヲシテ辟
易セシム犀ノ角ハ象牙ヨリモ甚價アルモノナ
リ
猪屬 此獸ハ皆野猪ヨリ出テ其品種數多アリ
野猪ハ元來東大陸ニノミ産スル者ニシテ東方
諸國ノ人民ハ見今モ亦好ミテ之ヲ獵獲ス然レ

トモ其極メテ暴烈兇暴ナルガ爲ニ險害ヲ蒙ルコト少カラズ家猪ハ當今殆世界中ニ繁殖シテ其肉ハ食料ニ最要品中ノ一トス元來亞米利加ニハ家猪ヲ産セス皆歐羅巴ヨリ移殖セシモノナリ猪鹿即印度猪此獸猪ニ比スレバ殊異ナル所多クドモ其名稱ノ如ク猪ノ一種タリ脚ハ猪

第一百一圖



猪

ヨリ長ク口ハ短クシテ印度諸島ニ産シ柔軟ナ

第二百二圖



猪鹿

ル短毛ヲ被レリ體軀ハ猪ノ如ク甚肥大ナレドモ醜狀ニ非ズ耳ハ短クシテ且ツ尖リタリ此獸皮ハ黒色ニシテ四箇ノ異常ナル牙アリ短牙二箇ハ下腮ヨリ生レ長牙二箇ハ上腮ヨリ出テ彎曲シテ眼上ニ至ル斯クノ如キ四牙ヲ有スル爲ニ容貌甚驚怪ナレドモ野猪ニ比スレハ却テ險害少シ其故ハ奮怒セシ

時ノ猛烈ニテ恐怖スバシト雖モ困苦セシ
 時ハ害ヲ爲サレバナリ此獸恐クハ肉食ノ者
 ナルベケレドモ多ク草木ノ葉ヲ餌食ス又之ヲ
 追逐シテ甚接近スルトキハ身ヲ海水ニ投ジテ
 速ニ游泳スル者ナリ

臍猪 此四足獸ハ南亞米利加ニ産スル者ニシ
 テ其種ニアリ頸圍臍猪、白唇臍猪是ナリ頸圍臍
 猪ハ身ノ長サ二尺五寸許毛ハ黑白相混合シテ
 甚醜惡形狀ハ猪ニ似テ猪ヨリモ肥大ナリ其脚
 ハ短クシテ強ク粗毛アリ此獸ハ牝牡並ニ親子

第二百三圖



臍猪

小族相共ニ林中ニ集合棲息ス
 白唇臍猪ハ身ノ長サ三尺許前
 種ニ比スレバ體軀太ク百千群
 フ成シテ地方ヲ荒蕪シ根ヲ食
 ハンガ爲ニ草木ヲ轉落シ且甘
 蔗、玉蜀黍、馬鈴薯等ヲ損害ス亞
 米利加ノ土人ハ毒箭ヲ以テ此獸ヲ射殺ス肉ハ
 滋養トナリテ味ハ豕肉ニ類スト云フ
 封豕 此四足獸ノ形ハ猪ニ類似スレトモ猪ヨ
 リ頗大ナリ毛ハ褐色ニシテ一寸五分許ノ鬣ヲ

具_レ屈曲スベキ長鼻アリテ善ク草木ヲ食フ此
 鼻ハ差象鼻ニ類セリ晝間ハ遠隔シタル地方ニ
 睡眠_レ夜間ニ至レバ出テ西瓜、葫蘆、牧草等ヲ搜
 索ス此獸ノ兒仔ヲ捕ヘテ養スルコトハ甚易
 ク其馴致シタル後ハ豕ノ如ク諸物ヲ與ヘテ飼
 蓄スヘシ其充分成長シタル者ハ重量八百ポ
 ンドアリ而シテ其種ニアリ一ハ南亞米利加ニ産
 シ一ハ麻刺加ニ産ス嘗テ佛蘭西ニ於テ掘出シ
 タル封豕ノ骸骨ハ其大サ最大ナル象ニ等シト
 云フ

第 二 百 四 十 四 圖



馬

馬屬 ホルス 此獸ハ見今唯家畜ノ者アルヲ認知スル
 ノミ或ハ野生ノ者アリトモ皆家畜ノ種ヨリ出
 ツ馬屬ハ亞刺伯産ヲ以テ最良トス諸國ニ於テ
 其他固有ノ馬ヲ産スル
 種類甚夥シ凡_レ馬ハ諸獸
 中尤モ人ニ須用シテ甚
 貴重ス可ク勢力アリテ
 速ニ馳驅シ且其從順ナ
 ルコト他ノ諸獸ニ卓越
 ス亞米利加西部、墨西哥

博物學

辛

又

及南亞米利加ノ牧地ニ産スル野馬ハ往時西班牙人ノ齎來セシ種族ノ繁殖セシ者ニ係ル
 蘇格蘭「スコットランド」スコットランドツト、フランド島ノ如キ寒國ニ於テハ尋常ノ馬漸々ニ短縮シテ銳敏強壯有用ナル小馬トナル又驢、文馬、花驢、虎斑驢ハ馬屬ニ居レドモ別種ノ者タリ
 此等ノ種ハ皆南亞非利加野生ノ者ニレノ就中花驢ハ虎ノ如キ美麗ナル斑紋有ル一因リテ著名ナリ然レドモ花驢ハ馴致



馬小 圖五百二第

第二百六圖



花驢

ヘテ使用スト云ノ

野驢 此獸ハ亞細亞

レテ以テ諸用ニ使役スルコト能ハザル者ナリ文馬ハ其温順

ニレ
 テ喜
 望峰
 ニテ
 ハ之
 ア教

圖七百二第



印度牛
 亞利伯駱駝
 驢

中部ニ産スル野馬ハ一種ナリ韃靼人ハ其肉ト
 皮トヲ得ンガ爲ニ之ヲ獵狩ス又驢ハ諸獸中ニ
 テ最有用ナル者ハ一ニ居レリ特ニ歐羅巴ノ貧
 民ニハ須要ノ者タル其故ハ能ク重物ヲ負ヒ艱
 難ニ耐ヘテ食物ハ唯租品ヲ須ナテ足レルヲ以
 テナリ

神原芳野 校

具氏博物學卷之五

